

平成26年(2014年)4月

豊中市

問い合わせ先

都市計画推進部 都市計画室 景観形成チーム

〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1 TEL:06-6858-2419 FAX:06-6854-9534

まちなみづくりの手引き (建築物・工作物・開発行為編)

みんなであらう とよなか景観

まちなみづくりの手引き

(建築物・工作物・開発行為編)



平成26年(2014年)4月

豊中市

<目次>

I	はじめに	1
1	手引きのねらい	1
2	手引きの対象	1
3	手引きの使い方	1
II	まちなみづくりの進め方	2
III	建築物等の手引き	4
	ステップ1 敷地周辺の景観特性を把握しましょう	4
1	敷地周辺の景観特性を把握する	4
	(1) 地形の特徴を読み取る	4
	(2) 地域の成り立ちを読み取る	5
	(3) 地域の景観資源を探す	5
	ステップ2 敷地や建築物の見え方に応じた工夫を考えましょう	6
1	敷地や建築物の見え方を確認する	6
	(1) 遠景を確認する	6
	(2) 中景を確認する	6
	(3) 近景を確認する	6
2	敷地や建築物の見え方に応じて工夫する	7
	(1) 遠景	7
	(2) 中景	8
	(3) 近景	9
	ステップ3 まちなみの類型に応じた工夫を考えましょう	10
1	まちなみの類型を把握する	10
2	まちなみ類型ごとの景観の特性に応じて工夫する	12
	(1) 住居系のまちなみ	12
	(2) 商業系のまちなみ	14
	(3) 工業系のまちなみ	16
	ステップ4 建築物等の種類に応じた工夫を考えましょう	18
1	建築物別の重要な配慮事項	20
	(1) 住宅	20
	(2) 商業・業務施設	28
	(3) 工場・倉庫	31
2	各建築要素の共通配慮事項	32
	(1) 屋根	32
	(2) 外壁	33
	(3) バルコニー・テラス	34
	(4) 屋外階段・エレベーター	34
	(5) 屋上設備・屋上工作物	34

(6) 広告物（建築物に付随する広告物）	35
(7) 外構（門・塀・玄関・アプローチ・生垣・フェンス等）	36
(8) 擁壁	39
(9) 植栽	40
(10) 舗装（アプローチ・駐車場・駐輪場以外の舗装）	40
(11) 屋外設備・ごみ置き場等	41
(12) 駐車場・駐輪場	42
3 工作物の配慮事項	44
4 開発行為の配慮事項	45
(1) 擁壁	45
(2) 植栽	46
(3) 舗装	46
(4) 電柱・電線類	46
ステップ5 緑化や色彩、維持管理についても留意しましょう	47
1 緑化についての留意事項	47
(1) 場所（空間）や目的に応じた樹木選び	47
(2) 植栽の配置	47
2 建築物等の色彩についての留意事項	48
(1) 色彩の基礎知識	48
(2) 基調色の選び方	49
(3) 色彩についての豆知識	50
3 維持管理についての留意事項	51
(1) 汚れにくく維持管理しやすい意匠を工夫しましょう	51
(2) 汚れにくく耐久性があり、補修がしやすい材料を用いましょう	51
(3) 維持管理を考えて植栽を施しましょう	51

I はじめに

1 手引きのねらい

良好な都市景観の形成は、市民や事業者のみなさんが、日頃から景観への理解を深めるとともに、建築物等を建築する際に美しく魅力的なまちづくりにつながる配慮を行うことが大切です。

このため、本市では、建築物等をつくるにあたって、景観法に基づく豊中市景観計画に「景観形成基準」を定めるとともに、より良いまちなみづくりの指針となる「豊中市景観配慮指針」を豊中市都市景観条例に基づいて定めています。

この手引きは、美しく魅力的なまちづくりを自主的に進めるための景観形成のポイントを、より良いまちなみづくりに向けた「豊中市景観配慮指針」に沿って解説するとともに、具体的な配慮の仕方を事例とあわせて紹介するものです。

2 手引きの対象

この手引きは、主に建築物等を建築する際に施主となる市民・事業者のみなさんに良好な都市景観形成につながる建築物等への配慮に役立てて頂くためのものです。また、設計者のみなさんにも参考にして頂けるよう具体的な事例等を用いて解説しています。

手引きの内容は、規模にかかわらず建築物、工作物、開発行為を対象として記載しています。

3 手引きの使い方

この手引きは以下の場面等を想定しています。

- 日常的に** 市民・事業者のみなさんが、建築物等の意匠と景観の関係について知識を深めるために活用する
- 構想や計画の際に** 建築物等の構想や計画の際に、施主や設計者のみなさんが、より良いまちなみづくりのための具体的なイメージを共有するために活用する
- 設計の際に** 建築物等の設計の際に、設計者のみなさんが「豊中市景観配慮指針」に沿った設計を行うために活用する
- 協議の際に** 行政との協議の際に、市民や事業者、設計者のみなさんと行政職員が、「豊中市景観配慮指針」に沿った具体的な計画・設計手法についてイメージを共有するために活用する

Ⅱ まちなみづくりの進め方

建築物の計画の際にはステップ1～5の各ステップを理解しながら進めていくことが大切です。以下の手順に沿って敷地周辺の景観の特徴に応じたまちなみづくりを考えましょう。

ステップ1

敷地周辺の景観特性を把握しましょう

地形の特徴や地域の成り立ちを読み取るとともに、地域の特徴的なものを探しましょう。読み取ったものや見つけたものは具体的な工夫を考える際に活用しましょう。

→ 4～5 ページ

- 地形の特徴を読み取る
- 地域の成り立ちを読み取る
- 地域の景観資源を探す

ステップ2

敷地や建築物の見え方に応じた工夫を考えましょう

周辺から敷地や建築物がどのように見えるのかを確認しましょう。それぞれの見え方に対応した配慮内容を参照しましょう。

→ 6～9 ページ

- 遠景
- 中景
- 近景

ステップ3

まちなみの類型に応じた工夫を考えましょう

敷地はどのようなまちなみの中にありますか？
まちなみの類型ごとの配慮内容を参照しましょう。

→ 10～11 ページ

住居系の
まちなみ

①戸建住宅中心の
まちなみ → 12 ページ

12 ページ

②集合住宅中心の
まちなみ → 13 ページ

商業系の
まちなみ

③商業施設中心の
まちなみ → 14 ページ

14 ページ

④幹線道路沿いの
まちなみ → 15 ページ

工業系の
まちなみ

⑤工場・倉庫
中心のまちなみ → 16 ページ

16 ページ

例えば・・・

商業系の商業施設中心のまちなみで、敷地面積が 150 m²の平地に戸建住宅を計画する場合…

全ての行為に共通する事項です。下記の①～③を参照ください。

- ① 現地や地図を見て敷地のまわりの地形を調べます。
- ② まわりの市街地がつくられた経緯を確認します。
- ③ 地域の景観資源を探します。

全ての行為に共通する事項です。下記の①～③を参照ください。

- ① 遠景を確認します。
- ② 中景を確認します。
- ③ 近景を確認します。

まちなみの類型を選択し、その中に記載してある工夫を考えます。

商業系のまちなみ

- ① 商業系のまちなみにおける工夫を確認します。
- ② 商業施設中心のまちなみとして、特に配慮すべき事項を確認します。

ステップ4 建築物等の種類に応じた工夫を考えましょう

建築しようとする建築物等はどれに該当しますか？該当する建築の配慮内容を参照しましょう。 → 18 ページ

建築物		建築物ごとの配慮事項	共通の配慮事項
戸建住宅	敷地が大きい (概ね 200㎡ 超)	平地に建つ	20 ページ
		傾斜地に建つ	21 ページ
	敷地が中程度 (概ね 100~200㎡)	平地に建つ	22 ページ
		傾斜地に建つ	23 ページ
	敷地が小さい (概ね 100㎡ 未満)	平地に建つ	24 ページ
		傾斜地に建つ	25 ページ
	集合住宅等	中高層 (概ね高さ 10m 超)	26 ページ
		低層 (概ね高さ 10m 以下)	27 ページ
	店舗	大規模	28 ページ
		小規模	29 ページ
	オフィスビル等	30 ページ	
	工場・倉庫	31 ページ	
工作物	工作物の配慮事項	44 ページ	
開発行為	開発行為の配慮事項	45~46 ページ	

32~43 ページ

(注) 福祉施設は集合住宅、医療施設・教育施設はオフィスビルを参照してください。

ステップ5 色彩・緑化・維持管理について留意しましょう

緑化に留意しましょう。

→ 47 ページ

建築物等の色彩に留意しましょう。

→ 48 ページ

維持管理に留意しましょう。

→ 51 ページ

建築物の種類を選択し、その中に記載してある工夫を考えます。

戸建住宅 → 敷地が中程度 (概ね 100~200㎡) → 平地に建つ

- ① 建築物等ごとの配慮事項を確認します。
- ② 建築物等の種類によらず配慮すべき共通の配慮事項を確認します。

全ての行為に共通する事項です。下記の①~③を参照ください。

- ① 緑化についての工夫を考えます。
- ② 建築物の色彩についての工夫を考えます。
- ③ 維持管理についての工夫を考えます。

Ⅲ 建築物等の手引き

ステップ1 敷地周辺の景観特性を把握しましょう

1 敷地周辺の景観特性を把握する

まず、建築物を建てようとしている敷地の周辺にどのような景観の特性があるのかを把握します。

(1) 地形の特徴を読み取る

景観のベースとなるのは地形です。豊中市の大きな地形を構成する「丘陵」「段丘」「平地」のうち、敷地がどこに位置するのかを確認します。それぞれ次のような特徴があります。

丘陵の景観

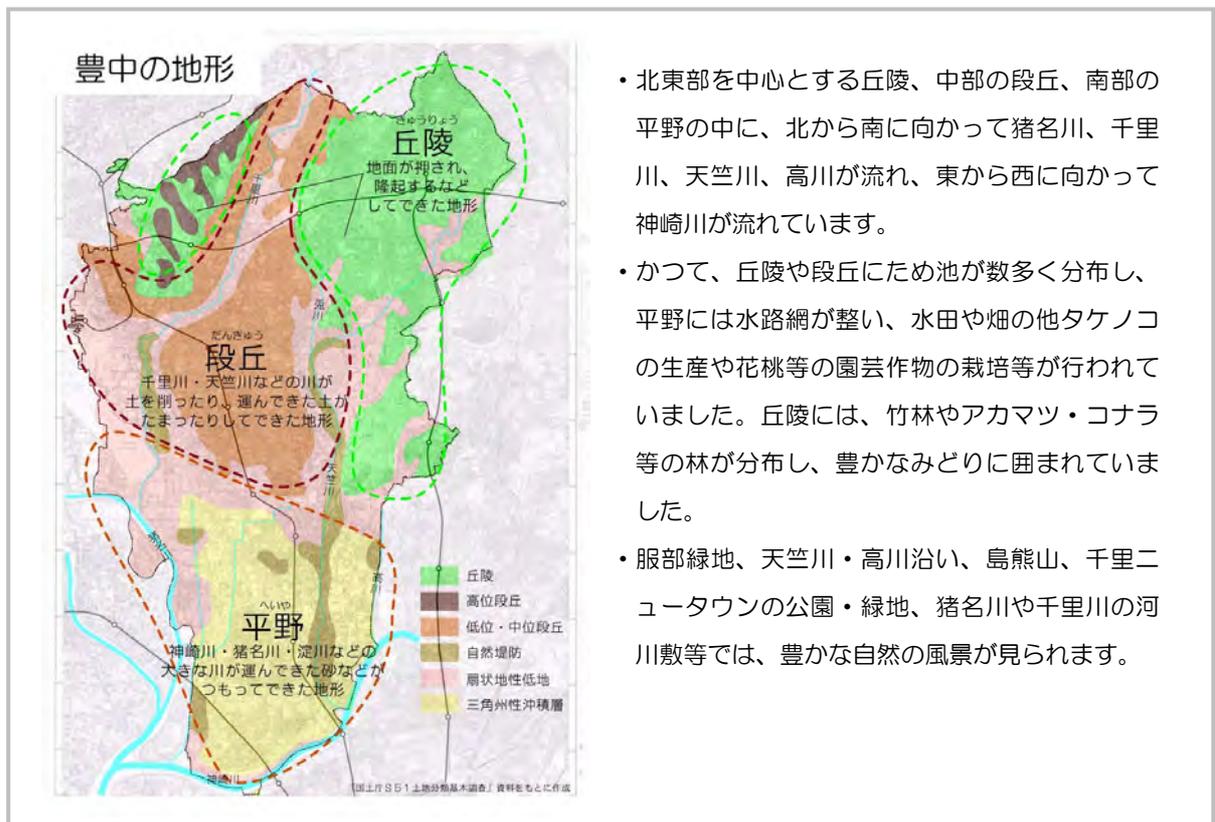
地形に起伏があり、丘陵の端部は遠くまで見渡せ、逆に遠くからもよく見える高台があることが特徴です。

段丘の景観

河川に向かって坂道が多い等、一定の向きに勾配があるのが特徴です。

平地の景観

起伏が少なく、通りの見え方がまちなみをつくっており、河川や幹線道路以外では遠くまで見渡せるところはあまりありません。

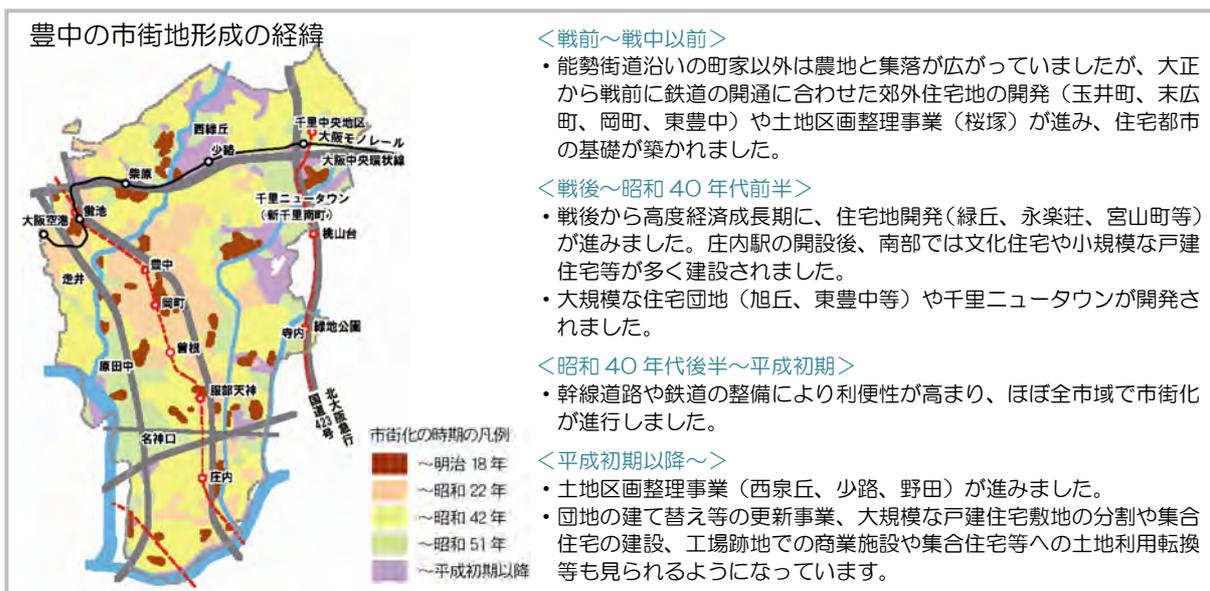


(2) 地域の成り立ちを読み取る

市街地ができた時期によってまちなみの特徴が異なります。地域の成り立ちの経緯や歴史的な背景を確認します。

豊中市の市街地が形成された時期は、概ね「戦前～戦中以前」「戦後～昭和 40 年代前半」「昭和 40 年代後半～平成初期」「平成初期以降」の4つの時代に区分することができます。それぞれの時代のまちなみは次のような特徴があります。

戦前～戦中以前につくられた まちの景観	工業化以前の手づくりで丁寧につくられたものが多く、ヒューマンスケールのまちなみが多いことが特徴です。
戦後～昭和 40 年代前半につくられたまちの景観	大量生産の工業製品が多く用いられ、地域らしさが比較的乏しく画一的なまちなみが多いことが特徴です。
昭和 40 年代後半～平成初期につくられたまちの景観	都市整備や景観形成事業も進み、こだわりや景観に配慮してつくられた施設も多いことが特徴です。
平成初期以降につくられたまちの景観	価値観が多様化したことによってさまざまな意匠の施設が増え、まちなみにも多様性が見られることが特徴です。



(3) 地域の景観資源を探す

地域らしい景観形成を考える際に留意すべき事項は地域によって異なるため、地勢の特徴・歴史の資源・人々の思い等地域に特徴的なものがあれば把握しましょう。これらは景観形成を考える際の資源として活用できます。例えば、以下のようなものがないか探してみましょう。

＜地勢の特徴＞	見晴らしのよい場所、印象的な坂道、河川やため池等の水辺、まとまった樹林地 等
＜歴史の資源＞	古くからある建築物、歴史を感じさせる道標やほこら、地域で大切にされてきた古木、地域の由来を表している地名 等
＜人々の思い＞	まちづくり等の活動、歌や小説・映画等に出てくる場所 等

ステップ2

敷地や建築物の見え方に応じた工夫を考えましょう

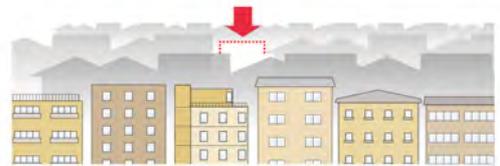
1 敷地や建築物の見え方を確認する

景観を考える際には、敷地と周辺との関係を意識することが必要です。このため、敷地の外に立って、周辺からどのように見えるのかを確認します。

(1) 遠景を確認する

高い位置や離れた場所から敷地を望むことができる場所があるか探しましょう。また、そこから敷地やその周囲を見たときにはどのように見えるか確認します。

例えば、以下の場所からの眺めが考えられます。



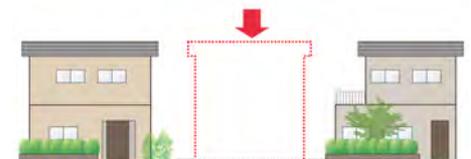
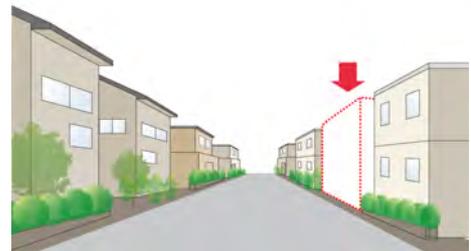
敷地を見下ろせる高台からの眺め、道路・河川や池等の対岸からの眺め、鉄道や高架道路等からの眺め 等

(2) 中景を確認する

敷地が面している通りに沿って見た場合に、景観を構成する要素にはどのようなものがあるのか、またどのような特徴があるのか確認します。

通りの景観を構成する要素としては、例えば、以下のものがあります。

敷地の間口の広さの連続性、建築物の壁面や屋根の連続性、敷地の塀や柵の連続性、通りに面した植栽の連続性、屋外広告物の連続性 等



また、以下の特徴がないか確認しましょう。

通りに沿って見通しがきく、交差点等で周囲から目立ちやすい 等

(3) 近景を確認する

敷地に近寄って間近に見た時にどのように見えるかを確認します。敷地の近くの建築物を参考にしましょう。

以下の点を確認しましょう。

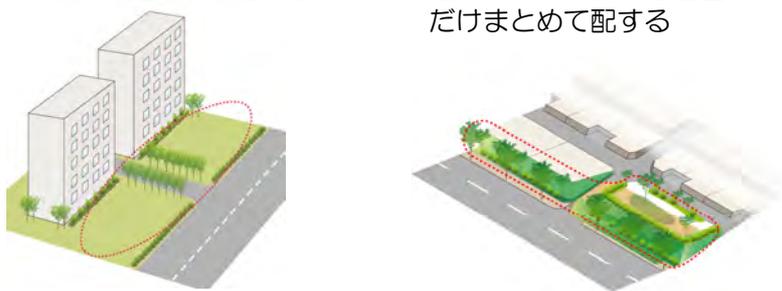
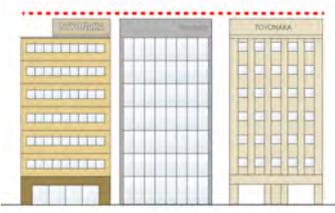
敷地と道路の高低差がどのように見えるか、建築物を近くで見た時に何が目につきやすいか（外壁、アプローチ、門扉、ごみ置き場、駐車場等） 等



2 敷地や建築物の見え方に応じて工夫する

(1) 遠景

高い位置から見た俯瞰景や離れた場所から見える建築物の輪郭線を整えていくことが大切です。
以下の事項を配慮しましょう。

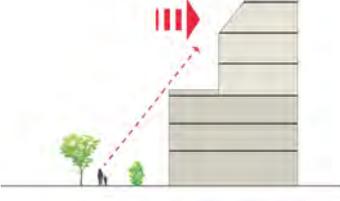
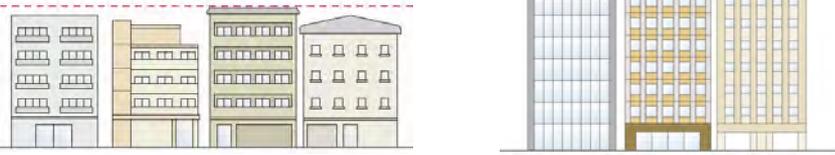
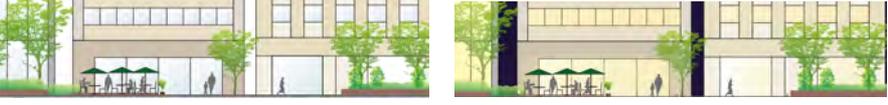
【景観配慮内容】	【解説】	
<ul style="list-style-type: none"> ● オープンスペースをできるだけまとめてとり、周辺と連続させる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 敷地内のオープンスペースはまとめてとり、また周囲と連続させる ● まとまった規模の宅地開発では緑地は通りから見える位置にできるだけまとめて配する 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 屋根の色調・形態、屋上工作物等は、高い位置からの視線も意識し目立たないようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋根は落ち着いた形態・意匠にする ● 屋上工作物等は高い位置からも見えにくくする 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高台からの眺望に配慮して周囲と調和した屋根の形態・意匠にする 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 輪郭線に関わる建築物等の高さや外壁・屋根の形態は、間近で見た場合だけでなく、周囲の建築物を含むシルエットとしてみた場合も考慮した意匠にする 	<ul style="list-style-type: none"> ● スカイラインを整える（高さ、屋根の形態等） ● 建築物群がまとまったシルエットとなるよう配置・形態を工夫する 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 屋上広告を掲出しないことを基本として、掲出する場合は眺望やスカイラインを乱さないよう配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ● スカイラインを乱さないようにする（適度な大きさにする、建物になじむ形態にする、優れた意匠を施す、支持柱類を見せない等） 	

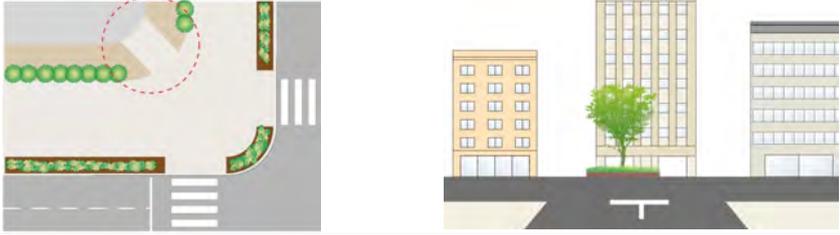
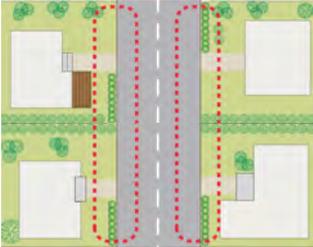
(2) 中景

通りに沿った景観をより良いものにするには、近隣の建築物とスケールをそろえてまとまり感をつくっていくことが大切です。

見通しのよい通りに面する場合は、ファサードがつくるリズムをそろえて連続感を生み出すようにしましょう。

交差点やアイストップとなる場所では、まちなみの結節点や地域のシンボルとしてゆとりをもたせたり、変化をつけましょう。

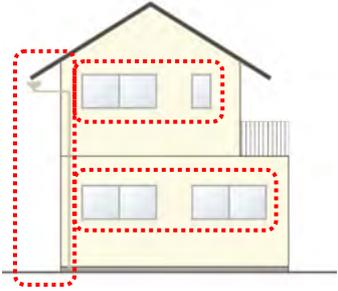
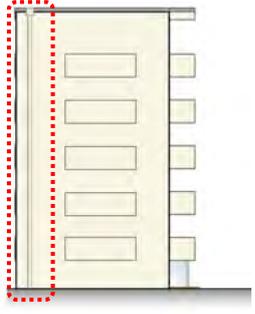
【景観配慮内容】	【解説】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲から逸脱したスケール感を持つ大規模な建築物等は避け、必要に応じて壁面の位置を後退させたり、分割することによって周囲になじませる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長大な壁面は分節化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高層部の壁面を後退させる 
<ul style="list-style-type: none"> ● 垂直性、水平性を組み合わせて、リズムや連続感を出す等、単調さを和らげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺の建築物とスカイラインを調和させる（高さをそろえる、形態をそろえる等） ・ 建築物のファサードを整える（マリオンによる縦のライン、窓による横のライン、開口部の形状等） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲と開口部の形状をそろえる 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低層部の色彩を連続させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敷際や低層部のみどりを連続させる 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンカフェ等、低層部ににぎわい機能が連続する通りでは、連続性の確保に努める 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的なまちなみにおいては、意匠や形態をそろえる等、まちなみの調和に努める 	

【景観配慮内容】	【解説】
<ul style="list-style-type: none"> ● 壁面位置の後退によってオープンスペースをつくり出す等、周辺のまちなみに合わせて空間にゆとりを感じさせる工夫をする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交差点部では、建築物のコーナー部を強調した意匠とする（曲面、レリーフの設置等） ● アイストップとなる場所ではシンボルツリーを設置する  <ul style="list-style-type: none"> ● 壁面位置の後退によって、敷地にゆとりをもたせる 

(3) 近景

敷地や建築物をすぐ近くから単体としてみた場合には、ヒューマンスケールに応じた親しみや暖かみの感じられる空間にすることが大切です。

敷地や建築物の中で細部にも気を配り、まちなみを阻害しがちな要素を隠すか目立たないように工夫しましょう。

【景観配慮内容】	【解説】
<ul style="list-style-type: none"> ● 親しみのある空間づくりを心がける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 敷際でのみどりの配置等、潤いを取り入れる（花・中低木等） ● 親しみもてる形態・意匠、素材を工夫する（分節化、威圧感の軽減、無機質さをなくす、自然素材をとりいれる等）  
<ul style="list-style-type: none"> ● 雑然としがちなものは隠すか目立たせない工夫をする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物の細部（窓枠、配管等の設備類）にも配慮する（建築物になじませる等）   <p>例：雨樋・サッシと外壁の色彩を合わせて目立たなくする 例：配管と外壁の色彩を合わせて目立たなくする</p>

ステップ3

まちなみの類型に応じた工夫を考えましょう

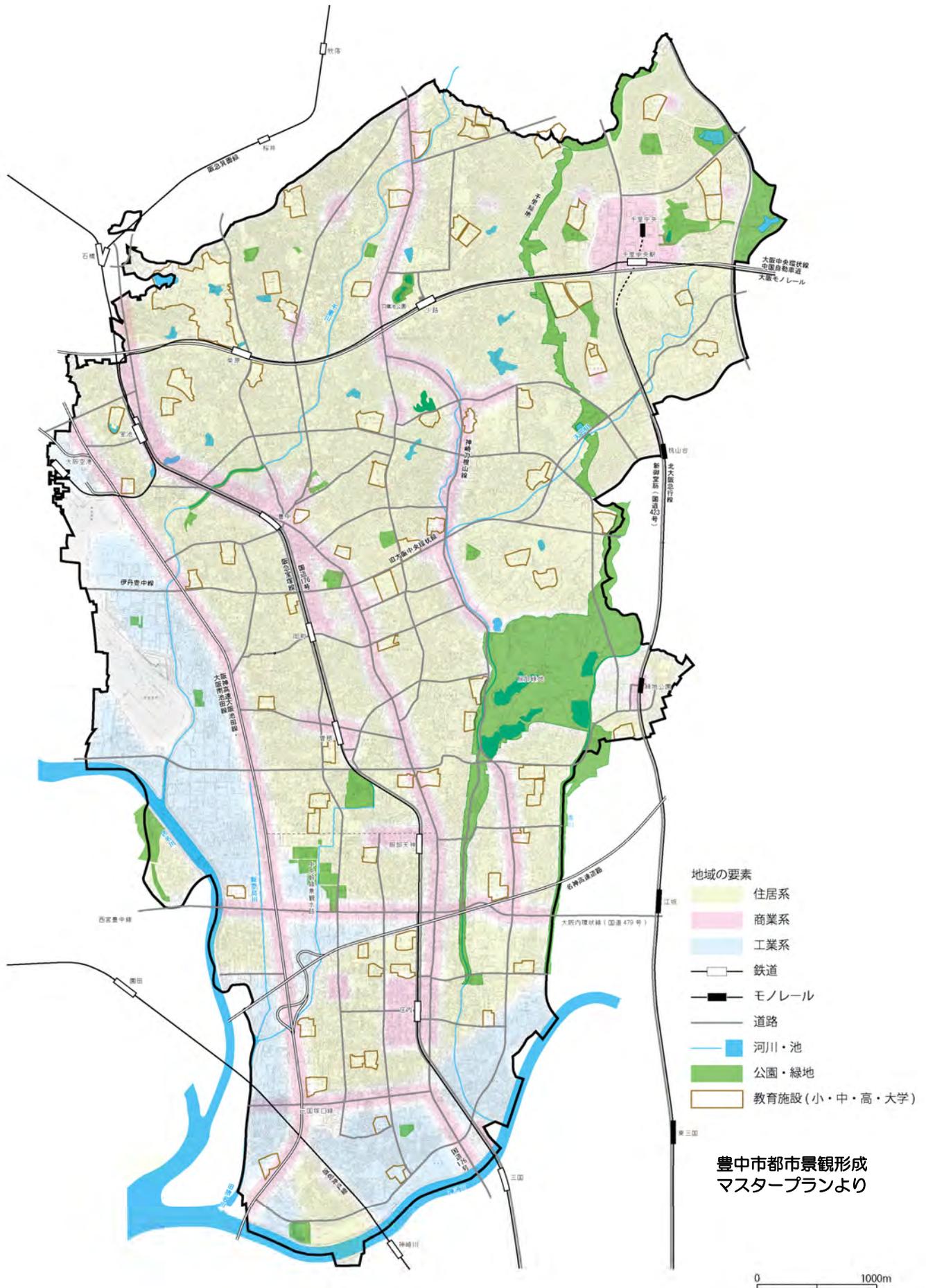
1 まちなみの類型を把握する

敷地はどのようなまちなみの中にありますか？豊中市内のまちなみは住居系、商業系、工業系の大きく3つに類型化されます。また、それぞれのまちなみ類型の中に特徴が明確なまちなみがあります。そして、周辺のまちなみと調和させることが良好な景観形成においてとても大切です。

敷地のある場所がどのまちなみの類型にあてはまるかを確認しましょう。

類型	特徴が明確なまちなみ	
(1) 住居系のまちなみ 住宅を中心とするまちなみ → 12 ページ	①戸建住宅中心のまちなみ 地域ごとの特徴を有した戸建住宅地のまちなみ 〈まちなみを特徴付ける主な要素〉 ・建築物の形態、外壁や屋根の色彩、 外構、ファサードの様式 → 12 ページ	
	②集合住宅中心のまちなみ 住棟の群が作り出す集合住宅地のまちなみ 〈まちなみを特徴付ける主な要素〉 ・建築物の高さ、外壁の意匠 ・オープンスペースの連続性 → 13 ページ	
(2) 商業系のまちなみ 店舗や事務所等の商業・業務施設を中心とするまちなみ → 14 ページ	①商業施設中心のまちなみ 多くの人が集まり地域の顔となるまちなみ 〈まちなみを特徴付ける主な要素〉 ・人の流れやたまり ・駅前広場等の公共空間 → 14 ページ	
	②幹線道路沿いのまちなみ 自動車で通過する人々にも印象の残るまちなみ 〈まちなみを特徴付ける主な要素〉 ・建築物のスカイラインや壁面の位置、外壁の色彩 ・人の流れやたまり → 15 ページ	
(3) 工業系のまちなみ 工場や倉庫等の工業施設等を中心とするまちなみ → 16 ページ	①工場・倉庫中心のまちなみ 無機質な印象を与えやすいまちなみ 〈まちなみを特徴付ける主な要素〉 ・道路面の敷際、植栽 ・建築物の形態 → 16 ページ	

まちなみ類型図



スナップ
まちのなみの類型に
工業系を併せて
工業系を併せて

2 まちなみ類型ごとの景観の特性に応じて工夫する

敷地がどのまちなみ類型にあてはまるかを前ページで確認したら、次に、どのような配慮が必要かを把握しましょう。

(1) 住居系のまちなみ

住宅を中心とするまちなみです。戸建住宅や集合住宅等建築物の形態が混在したまちなみや、住宅以外にも店舗や工場等が混在したまちなみもあります。また、神社や古墳等、古くからの歴史的な資源が残っているところもあります。

明確な特徴をもったまちなみとしては、第一種低層住居専用地域等の戸建住宅のまちなみ、団地のような集合住宅のまちなみがありますが、まちなみの要素が複数混在し、共通する特徴を見いだしにくい場合においても、少しでも快適なまちなみにしていくため、ステップ4（18ページ～）に示すそれぞれの敷地内でできる工夫を考えましょう。

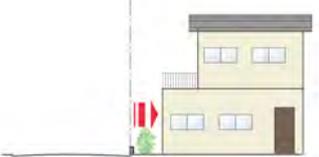
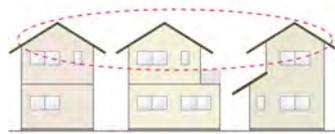
歴史的な資源が残っているところでは、自然に近い素材を用いたり、通りの代表的な色彩を用いる等の工夫を考えることも大切です。

① 戸建住宅中心のまちなみ

戸建住宅が多く立地し、開発の時期によって落ち着きや風格が感じられたり、立地場所によっては生活感や暖かみが感じられたりと、地域ごとに特徴のあるまちなみが見られます。

地域の特徴に応じて住環境を保全していくために、以下の事項に配慮しましょう。



【景観配慮内容】	【解説】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物の形態、外壁や屋根の色彩、外構、ファサードの様式等、まちなみのまとまりをもたらしている要素を把握し、意匠に取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通りに面する敷地にゆとりのあるところでは、壁面位置を道路から後退させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の形態がまちなみを印象づけているところでは、屋根形態の基調をそろえる 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敷際のみどりが連なっているところでは、みどりを連続させる（生垣にしたり、透視性のある柵にして庭木のみどりを見せる 等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観の色調がまちなみの特徴となっているところでは、屋根・外壁の色調をそろえる 

②集合住宅中心のまちなみ

マンション等の集合住宅が多く立地し、複数の住棟が一つのまとまりとして認識されるまちなみです。

建築物の規模が大きくなることから、建築物の意匠を周囲の建築物になじませたり、オープンスペースの連続性を考えて効果的に配することが大切となるため、以下の事項に配慮しましょう。



【景観配慮内容】	【解説】
<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物の高さ、外壁の意匠等を周囲の建築物になじませる工夫をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の建築物の高さがそろっているところでは、周囲の建築物と高さをそろえ、整ったスカイラインをつくる ・長大な印象とならないように、壁面を分節化する（低層階と上層階、水平・垂直方向の分節化 等） ・周囲の建築物のバルコニー等の水平ラインが基調となっているところでは、水平基調の意匠を取り入れる ・外観の色調がまちなみの特徴となっているところでは、周囲の建築物と色調をそろえる <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>低層と上層階の分節化 水平方向の分節化 垂直方向の分節化</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>
<ul style="list-style-type: none"> ● 通りに面するオープンスペースの位置を考慮し、連続性やまとまりを持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりを連続させる（生垣にする、アプローチにシンボルツリーを植える、駐車場周囲を緑化する 等） ・周辺のオープンスペースと連続するよう、敷地内のオープンスペースの配置や意匠を工夫する <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>

(2) 商業系のまちなみ

店舗や事務所等の商業・業務施設を中心とするまちなみです。小規模な店舗の立地する商店街等のまちなみの他、駅前や幹線道路沿い等で大規模な施設が立地するまちなみや、商業施設以外に住宅や工場等が立地する混在したまちなみもあります。また、神社や古墳等、古くからの歴史的な資源が残っているところもあります。

特徴が明確なまちなみとしては、駅前等の商業施設中心のまちなみや幹線道路沿いのまちなみがありますが、まちなみの要素が複数混在し、共通する特徴を見だしにくい場合においても、少しでも快適なまちなみにしていくため、ステップ4（18ページ～）に示すそれぞれの敷地内のできる工夫を考えましょう。

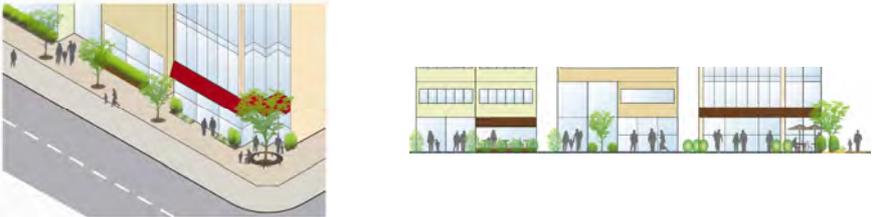
歴史的な資源が残っているところでは、自然に近い素材を用いたり、通りの代表的な色彩を用いる等の工夫を考えることも大切です。

①商業施設中心のまちなみ

多くの人が集まる鉄道駅前等のまちなみは、不特定多数の人の目に触れやすく、地域の顔としての性格を持っています。

目立つことを競い合うのではなく、多くの人々が集まるにぎわいのある地域の顔としてのまちなみづくりに向け、人の流れやたまりとなる場所をつくったり、公共空間との調和を図るため、以下の事項に配慮しましょう。



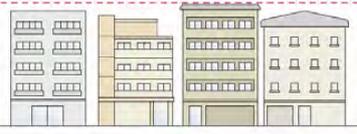
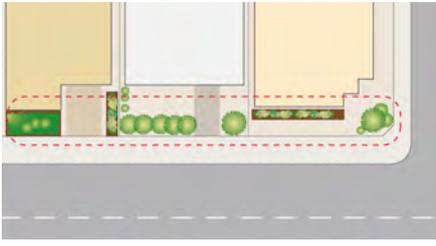
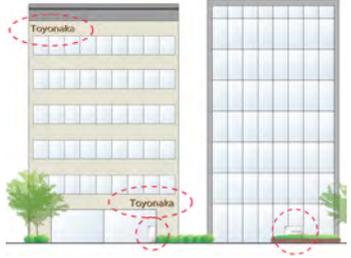
【景観配慮内容】	【解説】
<ul style="list-style-type: none"> ● 明るくにぎわいを感じる空間をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明るさ、にぎわいを演出する意匠とする（ショーウィンドウで人のにぎわいが見えるようにする、低層階に強調色を集める 等） 
<ul style="list-style-type: none"> ● まちなみの連続性に配慮しながら、道路面の敷際には人の流れやたまりをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路面の敷際には人が歩けるスペースやたまるスペースをつくる ● 開放的に低層階をしつらえる（開放性、透視性 等） 
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前広場等の公共空間の意匠との調和を図り、まちなみにまとまりを持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前広場や歩道の舗装と敷地の舗装を調和させる ● まちかどを演出する（人の流れを考えたエントランスの配置や立面の意匠 等） 

②幹線道路沿いのまちなみ

幅員の広い幹線道路沿いのまちなみは、自動車で通過する人びとの目に触れることが多く、地区の顔となっています。

自動車からの視線のみを考えてスケールの大きい自己主張の強い意匠にならないよう注意することや、通りに沿ったまちなみの連続性をつくとともに、歩行者の視点にも配慮した空間づくりを考えることが大切となるため、以下の事項に配慮しましょう。



【景観配慮内容】	【解説】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物のスカイラインや壁面の位置、外壁の色彩等を周囲の建築物と調和した意匠にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の建築物の高さがそろっているところでは、周囲の建築物と高さをそろえ、整ったスカイラインをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外観の色調がまちなみの特徴となっているところでは、周辺の建築物と色調をそろえる 
<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車で通過する人の視線だけでなく、道路沿いの歩行者からの見え方にも十分に配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通りに面してみどりを連続させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者に圧迫感を与えない広告物の大きさ・配置にする 
<ul style="list-style-type: none"> ● 道路面の敷際には人の流れやたまりをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路面の敷際には人が歩けるスペースやたまるスペースをつくる 	

(3) 工業系のまちなみ

工場や倉庫等の工業施設や流通施設を中心とするまちなみです。大規模な施設が立地するまちなみの他、小規模な工場や倉庫等と住宅や商業施設等が混在したまちなみもあります。また、神社や古墳等、古くからの歴史的な資源が残っているところもあります。

明確な特徴を持ったまちなみとしては、工場・倉庫がまとまって立地するまちなみがありますが、まちなみの要素が複数混在し、共通する特徴を見だしにくい場合においても、少しでも快適なまちなみにしていくため、ステップ4（18ページ～）に示すそれぞれの敷地内のできる工夫を考えましょう。

歴史的な資源が残っているところでは、自然に近い素材を用いたり、通りの代表的な色彩を用いる等の工夫を考えることも大切です。

①工場・倉庫中心のまちなみ

無機質で単調になりがちな工場や倉庫等によって、無表情な印象を与えやすいまちなみです。

周辺に配慮したり、みどりを積極的に活用する等、通りに表情を与えるような工夫を考えることが大切となるため、以下の事項に配慮しましょう。



【景観配慮内容】	【解説】	
<p>● 道路面の敷際を植栽によりみどり豊かな景観にする等、単調で無表情にならない意匠や素材の工夫をする</p>	<p>・ 敷際にみどりを配する</p> 	<p>・ 大規模な壁面は分節化する</p> 
	<p>・ みどりを連続させる</p> 	<p>・ 設備類は目立たなくする</p> 

◆コラム《景観シミュレーションの活用》

景観に配慮した建築物の計画や、地域のまちなみづくりの検討は、これまでパース画やフォトモンタージュ、シュノーケルカメラを用いた模型撮影等、さまざまな可視化の手法が活用されてきましたが、最近では机上のコンピュータで3DCG/VR（注）を利用した景観シミュレーションができるようになってきています。

図面のみだと、専門家であっても立体的なイメージを描くことは計画対象に絞られ、周辺のまちなみとの調和までなかなか検討が及びませんでした。3DCGによるVRを利用すれば任意の視点からの見え方が即座に直接的に検討できる上、計画内容が固定化するまでに建築物の意匠等について設定条件を変えながらさまざまなケースを比較し、最良な計画をつくり上げることができます。

また、まちなみづくりには、多様な利害関係者が関与することになりますが、3DCGによるVRを利用した景観シミュレーションの活用により、誰にでも計画内容を短時間でわかりやすく伝達することができるようになります。

（注）3DCG：3次元コンピュータ・グラフィックス
VR：バーチャル・リアリティ



大阪大学で進められているシミュレーション技術の研究例

提供：大阪大学大学院工学研究科
環境・エネルギー工学専攻 福田研究室

◆コラム《まちなみに溶け込む立体駐車場》

立体駐車場は無機質な外観で景観を阻害する要素になりやすいので注意が必要です。

建築物と意匠を合わせる、緑化する、パネルやルーバーで覆う等の工夫によりまちなみへの影響をやわらげることができます。

〈緑化する〉



（他市の例）

〈ルーバーで覆い、みどりを列植する〉



ステップ4

建築物等の種類に応じた工夫を考えましょう

建てようとする建築物等が、どの種類に該当するかを確認します。種類によってまちなみに影響する要素が異なることを認識しましょう。

以下では、建築物や工作物等の種類ごとに景観形成を考える際に配慮すべき事項や事例を示しています。

1 建築物別の重要な配慮事項

(1) 住宅	戸建住宅	敷地が大きい (概ね 200㎡ 超)	平地に 建つ	①敷地が大きな戸建住宅(平地)	20 ページ
			傾斜地に 建つ	②敷地が大きな戸建住宅(傾斜地)	21 ページ
		敷地が中程度 (概ね 100~ 200㎡)	平地に 建つ	③敷地が中程度の戸建住宅(平地)	22 ページ
			傾斜地に 建つ	④敷地が中程度の戸建住宅(傾斜地)	23 ページ
		敷地が小さい (概ね 100㎡ 未満)	平地に 建つ	⑤敷地が小さな戸建住宅(平地)	24 ページ
			傾斜地に 建つ	⑥敷地が小さな戸建住宅(傾斜地)	25 ページ
	集合住宅等	中高層(概ね高さ 10m 超)	⑦中高層の集合住宅等	26 ページ	
		低層(概ね高さ 10m 以下)	⑧低層の集合住宅等	27 ページ	
(2) 商業・ 業務施設	店舗	大規模	①大規模な店舗	28 ページ	
		小規模	②中規模な店舗	29 ページ	
	オフィスビル等	③オフィスビル等	30 ページ		
(3) 工場・ 倉庫	工場・倉庫	工場・倉庫	31 ページ		

(注) 福祉施設は集合住宅、医療施設・教育施設はオフィスビルを参照してください。

2 各建築要素の共通配慮事項

(1) 屋根	32 ページ	(8) 擁壁	39 ページ
(2) 外壁	33 ページ	(9) 植栽	40 ページ
(3) バルコニー・テラス	34 ページ	(10) 舗装(アプローチ・駐車場・ 駐輪場以外の舗装)	40~41 ページ
(4) 屋外階段・エレベーター	34 ページ	(11) 屋外設備・ごみ置き場等	41 ページ
(5) 屋上設備・屋上工作物	34~35 ページ	(12) 駐車場・駐輪場	42~43 ページ
(6) 広告物(建築物に付随する広告物)	35 ページ		
(7) 外構	36~38 ページ		
3 工作物の配慮事項	44 ページ	4 開発行為の配慮事項	45~46 ページ

【各ページの見方】

1 建築物別の重要な配慮事項

種類ごとに特に重要な配慮事項を示しています。まちなみづくりに特に重要な内容ですので、計画・設計の中に積極的に取り入れてください。



まちなみをつくるにあたって、建築物の種類ごとに読みとるべき特徴や、それを踏まえた配慮事項を示しています。

「豊中市景観配慮指針」の中でも、当該種類で特に重要な項目を、よく見られる事例イラストを使用して解説しています。

重要な配慮事項を市内の事例で紹介しています。建築物の種類把握や、具体的な計画・設計の参考にしてください。

2 各建築要素の共通配慮事項

建築物の種類によらず、共通して配慮すべき事項を、建築物の要素ごとに解説しています。計画・設計の中で配慮がなされているかを確認してください。



3 工作物、4 開発行為も同様に確認してください。

建築物の要素別に、「豊中市景観配慮指針」の内容と、具体的な配慮例を市内の事例やイラストで紹介しています。具体的な計画・設計の参考にしてください。

住宅、商業・業務施設、工場・倉庫等などの建築物で適用できるかをマークで示しています。建築物の種類に応じて、参考にしてください。

- (凡例)
- 住 : 住宅
 - 商 : 商業・業務施設
 - 工 : 工場・倉庫

1 建築物別の重要な配慮事項

(1) 住宅

①敷地が大きな戸建住宅（平地）

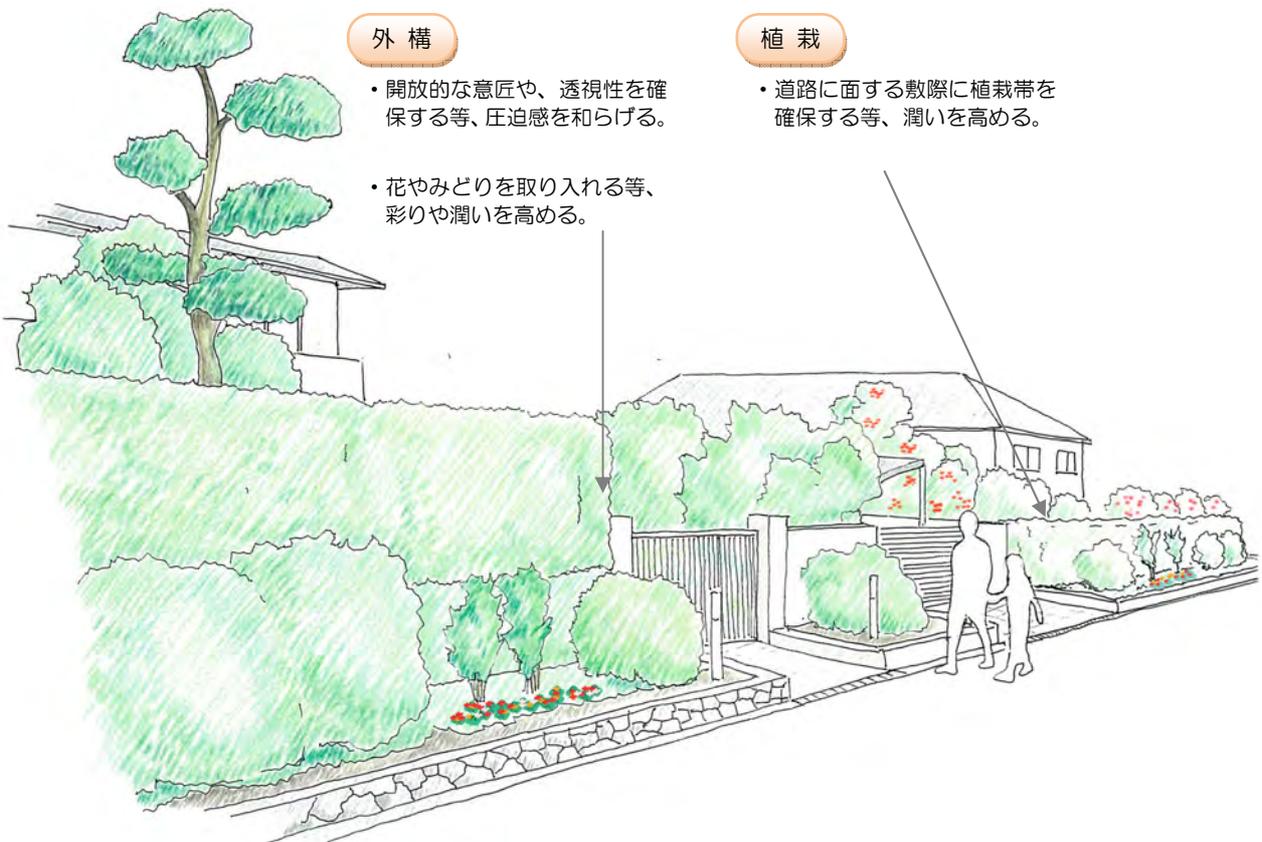
概ね敷地面積が200㎡超で、道路との間に高低差がない戸建住宅を対象としています。

特徴

建築物は植栽や塀等の後ろにかいま見える程度で、庭木等の植栽や生垣、塀等の外構がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

敷際にゆとりを感じさせる工夫や、生垣や庭木等による敷際のみどりや外構の連続性等によるまちなみづくりを進めましょう。



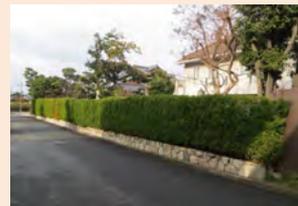
生垣のみどりが連なり潤いあるまちなみがつくられている



外構に花木を取り入れてまちなみに彩りを添えている



塀に沿って低木を配置、庭木とあわせて立体感のあるみどりの空間にしている



生垣によりみどり豊かなまちなみをつくり出している

②敷地が大きな戸建住宅（傾斜地）

概ね敷地面積が200㎡超で、道路との間に高低差がある戸建住宅を対象としています。

特徴

庭木等のみどりや生垣、塀等の外構の他、高低差を処理する擁壁や高低差を利用して設けられる駐車場がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

敷際にゆとりを感じさせる工夫を施したり、高低差をいかした立体的な緑化や豊富なみどりによる圧迫感を感じさせない工夫等によるまちなみづくりを進めましょう。

外構

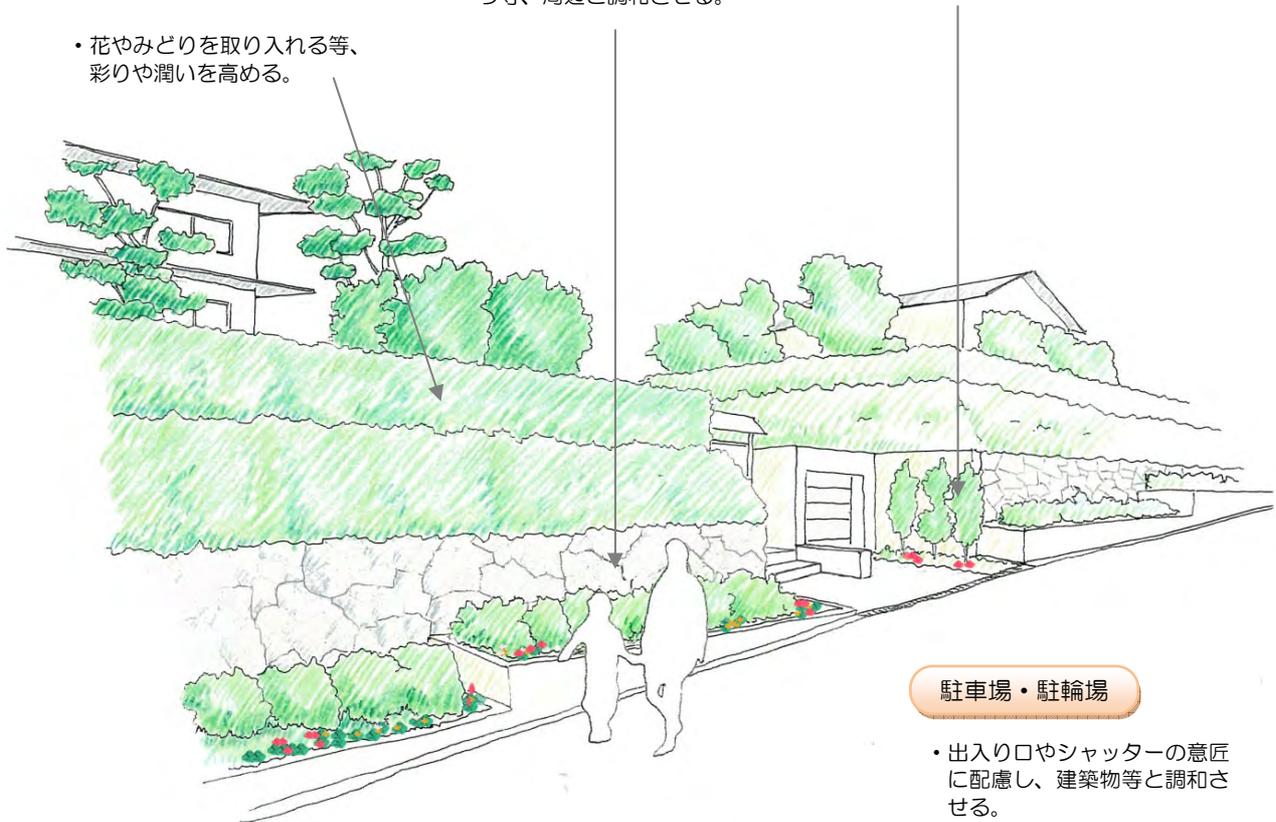
- ・開放的な意匠や、透視性を確保する等、圧迫感を和らげる。
- ・花やみどりを取り入れる等、彩りや潤いを高める。

擁壁

- ・法面にする、緑化を施す、周囲のものと同素材を使う等、周辺と調和させる。

植栽

- ・道路に面する敷際に植栽帯を確保する等、潤いを高める。



駐車場・駐輪場

- ・出入口やシャッターの意匠に配慮し、建築物等と調和させる。



擁壁と生垣の組み合わせで潤いを高めている



石垣で風格をつくりながら、みどりで潤いを高めている



落ち着いた外構に花木を添えて彩りを高めている



擁壁前にボリュームのあるみどりを配し連続させている

③敷地が中程度の戸建住宅（平地）

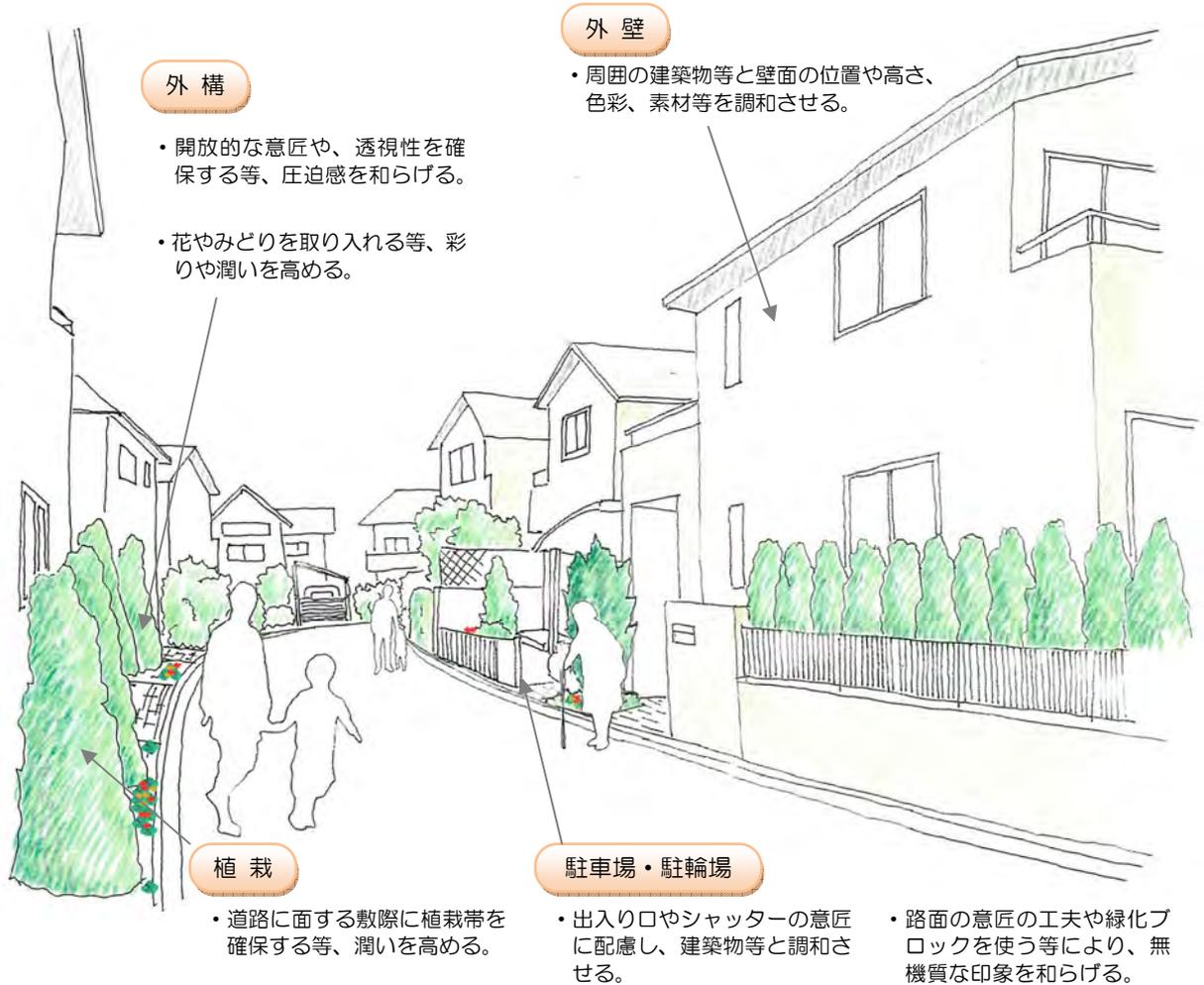
概ね敷地面積が100~200㎡で、道路との間に高低差がない戸建住宅を対象としています。

特徴

庭木等のみどりや生垣、塀等の外構の他、通りから見える建築物の外壁や通りに面して設けられる駐車場がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

建築物の配置や意匠が整った外観、敷地にゆとりを感じさせる工夫、外構やみどりを道路際に配する工夫等によってまちなみの連続性を保つよう配慮しましょう。



生垣の連なりで潤いを高めている



塀と透視性のよい柵を組み合わせ、みどりが外からも楽しめる



道路に面して植栽を設けてみどり豊かな印象にしている



開放的にしつらえ、路面を工夫している

④敷地が中程度の戸建住宅（傾斜地）

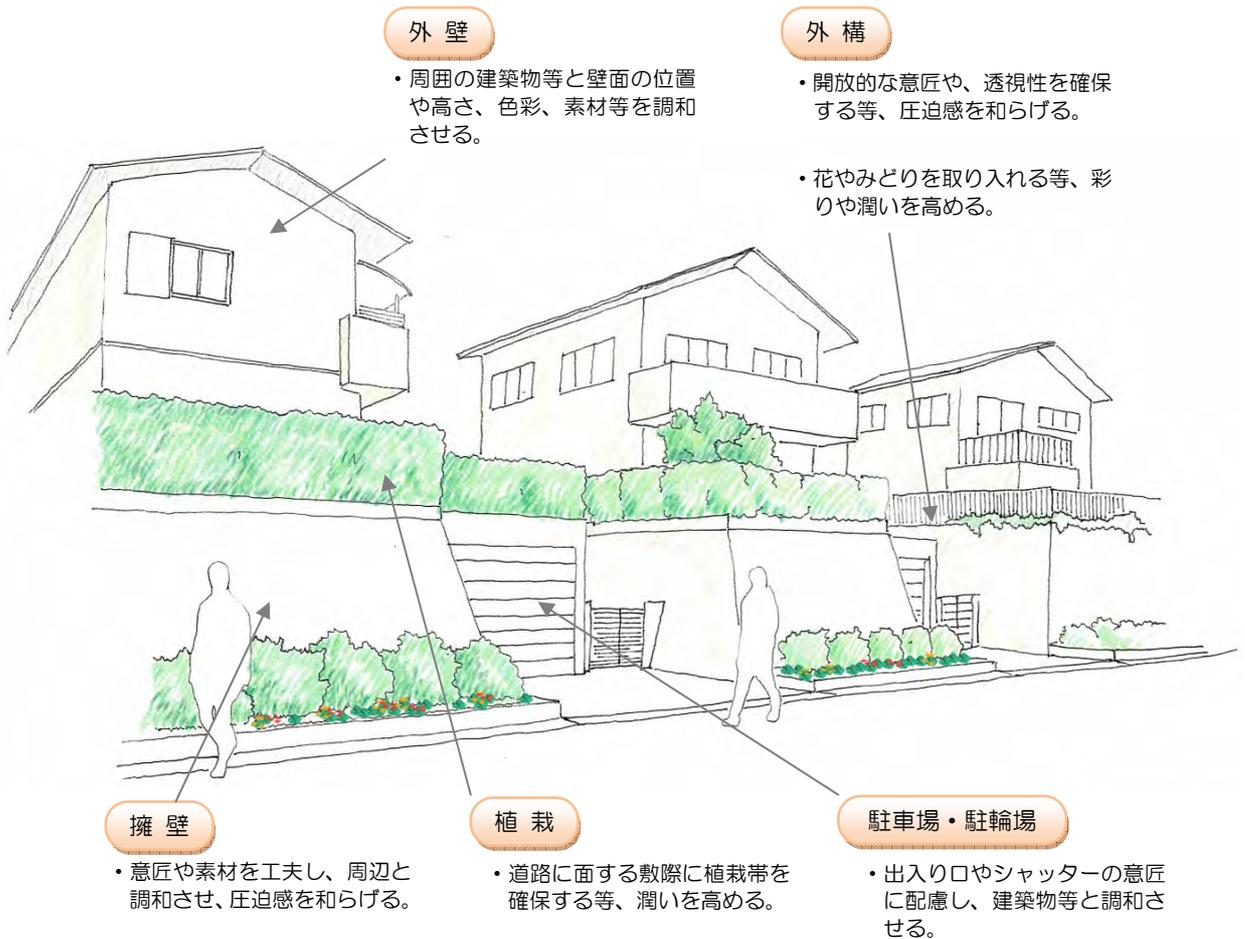
概ね敷地面積が100~200㎡で、道路との間に高低差がある戸建住宅を対象としています。

特徴

庭木等のみどりや生垣、塀等の外構の他、通りから見える建築物の外壁、高低差を処理する擁壁や高低差を利用して設けられる駐車場がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

効果的なみどりの配置による高低差がもたらす圧迫感を感じさせない工夫や、建築物や工作物の外観が整ったまちなみづくりを進めましょう。



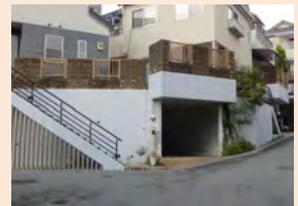
シャッターの意匠をそろえ、まちなみを整えている



擁壁に低彩度色を用いることで、威圧感を軽減している



擁壁のセットバックと植栽で圧迫感を軽減し、潤いを高めている



擁壁のセットバックや緑化、意匠の工夫で圧迫感を軽減している

⑤敷地が小さな戸建住宅（平地）

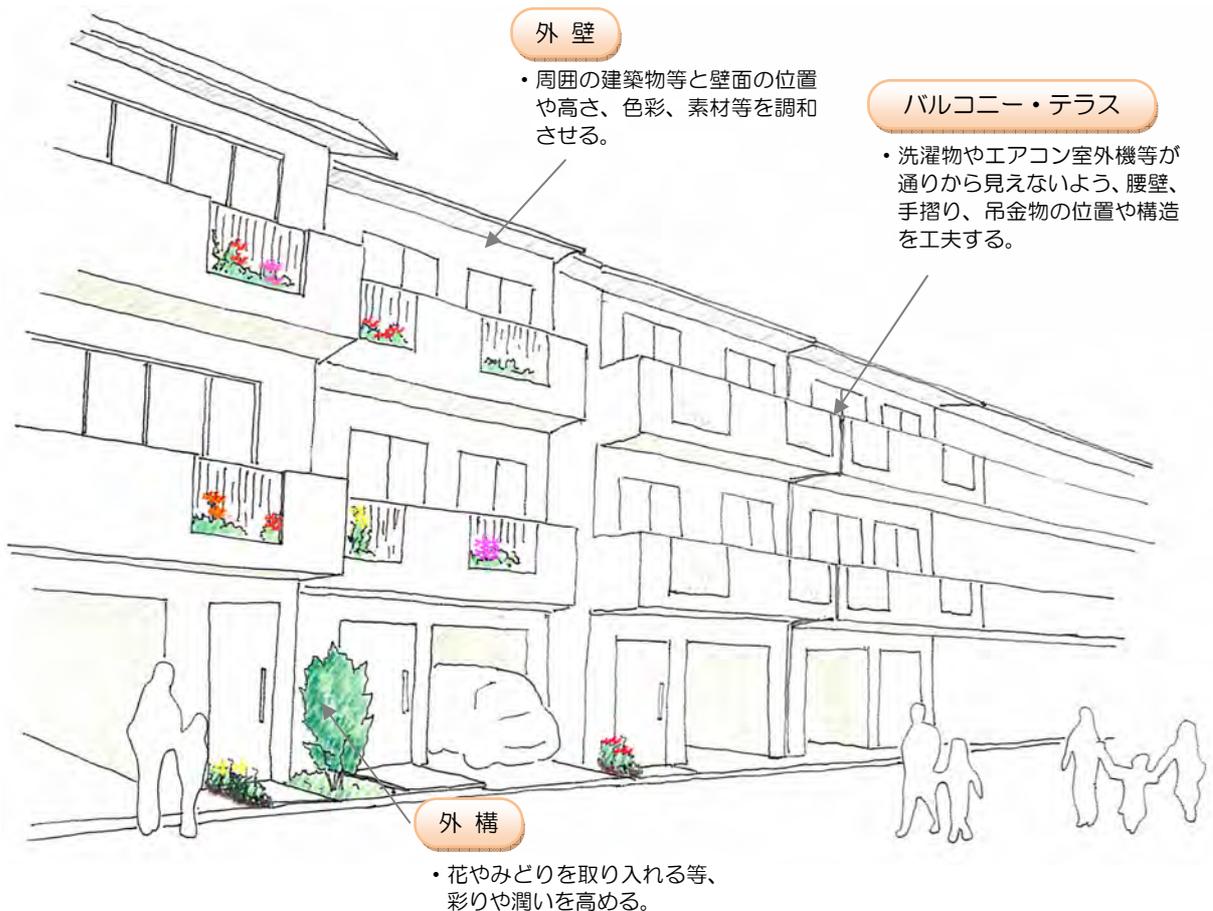
概ね敷地面積が100㎡未満で、道路との間に高低差がない戸建住宅を対象としています。

特徴

建築物の外観やバルコニーの他、植栽等の外構や通りに面して設けられる駐車場がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

建築物の壁面位置や意匠の整った外観による、まとまりのあるまちなみづくりや敷際での植栽による潤い豊かなまちなみづくりを進めましょう。



バルコニーの意匠をそろえながら、適度に変化をつけ、リズムのあるまちなみとしている



外壁の色彩を落ち着いた色あいで調和させ、まちなみに統一感を与えている



敷際のスペースをいかし、それぞれ個性的に緑化している



敷際に中木を配し、並木道のようにしつらえている

⑥敷地が小さな戸建住宅（傾斜地）

概ね敷地面積が100㎡未満で、道路との間に高低差がある戸建住宅を対象としています。

特徴

建築物の外壁や生垣や塀等の外構の他、高低差を処理する擁壁や高低差を利用して設けられる駐車場がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

擁壁や建築物の壁面、駐車スペース周りのつくり込みや意匠の工夫等による潤いのあるまちなみづくりを進めましょう。



⑦中高層の集合住宅等

概ね高さ 10m を超える集合住宅や福祉施設等を対象としています。

特徴

建築物の外壁やバルコニー、屋外設備、ごみ置き場、屋外階段、生垣や塀等の外構、駐車場、駐輪場やオープンスペースの他、法面処理できない場合の擁壁等、さまざまな要素がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

建築物のまとまりを意識し、オープンスペースの連続性やみどりの連なりを大切にしたり、建築物や付帯施設が圧迫感を与えないよう配置や意匠に配慮しましょう。

外壁

- 周囲の建築物等と壁面の位置や高さ、色彩、素材等を調和させる。
- 外壁の基調色として用いる色彩は別途定める範囲にする。
(33 ページを参照)

外構

- 開放的な意匠や、透視性を確保する等、圧迫感を和らげる。
- 花やみどりを取り入れる等、彩りや潤いを高める。
- アプローチの舗装は建築物や道路との連続性を保つ等、周辺と調和させる。

擁壁

- 法面にする、緑化を施す、周囲のものとそろえた素材を使う等、周辺と調和させる。

植栽

- 道路に面する敷際に植栽帯を確保する等、潤いを高める。

屋外階段・エレベーター

- 建築物と一体的な意匠を施す等、建築物と調和させる。

駐車場・駐輪場

- 見通し等の安全性を確保した上で、建築物の配置の工夫や生垣で囲う等により、自動車や自転車が通りから目立たないようにする。
- 立体駐車場等の設備の見え方にも配慮し、安全性を確保しながらも建築物と一体的な意匠や色彩にする。

屋外設備・ごみ置き場

- 安全上支障がない限り、建築物と一体的な意匠を施す等、建築物等と調和させる。



低彩度色を用いるとともに、分節化し、単調さを軽減している



屋外階段をルーバーで覆い、建築物になじませている



透過性のある柵の前面に植栽帯を配し、潤いを高めている



道路に面して法面を設けて緑化を施し、圧迫感を低減させている



敷地奥に駐車場を配して通りから見えにくくしている



歩道と一体となった開放感のあるアプローチ空間をつくり出している



立体駐車場をルーバーで囲い、緑化も施し、威圧感を軽減させている



ごみ置き場を外壁色と一体的意匠とし、目立たなくしている

⑧低層の集合住宅等

概ね高さ 10m 以下の集合住宅や福祉施設等を対象としています。

特徴

建築物の外壁やバルコニー、屋外設備、ごみ置き場、屋外階段、生垣や塀等の外構、駐車場、駐輪場の他、法面処理できない場合の擁壁等、さまざまな要素がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

隣接する住宅との調和や建築物の壁面、バルコニーの意匠、駐輪場等の配置や目隠し等によるすっきりとしたまちなみづくり等を進めましょう。



屋根形態や外観の意匠に変化をつけ分節化し、まちなみの表情をつくり出している



建築物外周に樹木を多層的に配し、潤いを高めている



駐車場まわりにみどりを配し、まちなみに潤いを与えている



ごみ置き場が通りから見えないよう工夫している

(2) 商業・業務施設

①大規模な店舗

幹線道路沿いの店舗や駅前等の大規模な店舗等を対象としています。

特徴

建築物の外壁や屋外広告物、植栽、駐車場、駐輪場等がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

にぎわいのあるまちなみづくりにつながる、通りの景観を意識したみどりの連続性、際立ちすぎない外観意匠の建築物による調和、屋外広告物を整えたすっきりとしたまちなみづくり等を進めましょう。

外壁

- 周囲の建築物等と壁面の位置や高さ、色彩、素材等を調和させる。
- 外壁の基調色として用いる色彩は別途定める範囲にする。(33ページを参照)

広告物

- 建築物との一体化を図る、建築物の外壁と調和する地色にする等、建築物や周辺と調和させる。
- 壁面や屋上、まちかど等目立つ場所では特に意匠に配慮する。

外構

- 花やみどりを取り入れる等、彩りや潤いを高める。

植栽

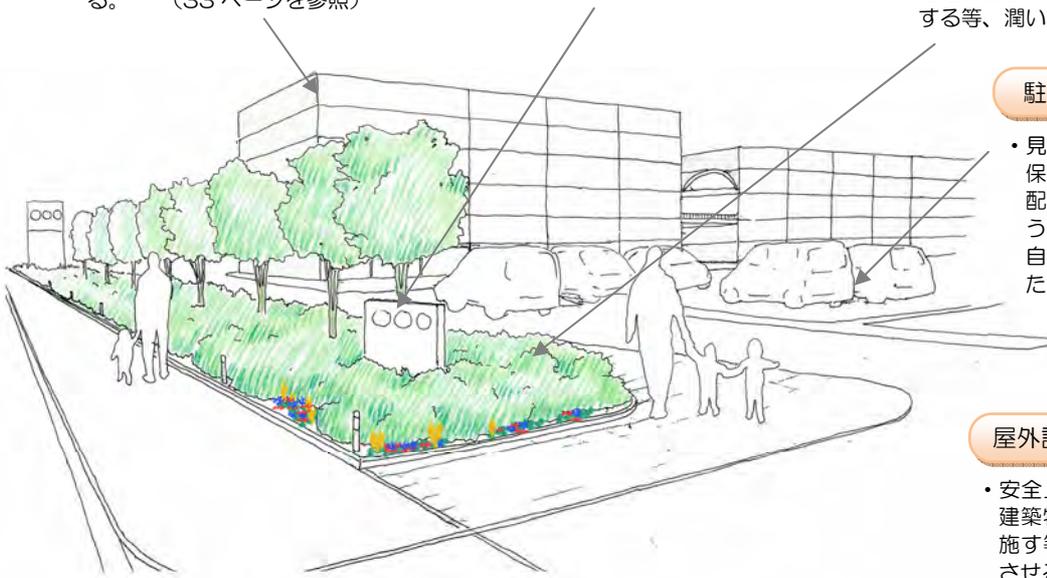
- 道路に面する敷地に植栽帯を確保する等、潤いを高める。

駐車場・駐輪場

- 見通し等の安全性を確保した上で、建築物の配置の工夫や生垣で囲う等により、自動車や自転車が通りから目立たないようにする。

屋外設備・ごみ置き場

- 安全上支障がない限り、建築物と一体的な意匠を施す等、建築物等と調和させる。



低彩度の色彩でまとまりのあるまちなみとしている



セットバック空間に植栽帯を確保し、潤いを高めている



突出広告の地色を統一するとともに集合化し、すっきりと掲出している



屋外設備を建築物と同じ意匠の囲いで隠している

②小規模な店舗

独立した商店や商店街の中の店舗、建築物の低層部に設置する小規模な店舗等を対象としています。

特徴

建築物の外壁やショーウィンドウ、エントランス、屋外広告物等がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

にぎわいのある通りのまちなみづくりや屋外広告物を整理したすっきりとしたまちなみづくり等を進めましょう。

外壁

- 周囲の建築物等と壁面の位置や高さ、色彩、素材等を調和させる。

屋上設備・屋上工作物

- 屋根または壁面の立ち上げ、ルーバーを用いて隠す等、通りから見えないように設置する。

外構

- 開放的な意匠や、透視性を確保する等、圧迫感を和らげる。

広告物

- 建築物との一体化を図る、建築物の外壁と調和する地色にする等、建築物や周辺と調和させる。
- 壁面や屋上、まちかど等目立つ場所では特に意匠に配慮する。



落ち着いた外壁色を用い、周囲の建築物と調和させている



屋上設備をルーバーで隠している



広告物を必要最小限の大きさに抑え、さりげなく掲出している



店舗の敷際にプランターを配し、道行く人の目を楽しませている

③オフィスビル等

事務所や医療施設、教育施設等を対象としています。

特徴

建築物の外壁やスカイライン、植栽等の外構や舗装、屋外広告物等がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

建築物のまとまりを意識し、オープンスペースの連続性や屋外広告物が整理されたすっきりとしたまちなみづくりの他、低層部の外観意匠と周辺が調和するまちなみづくりを進めましょう。

外壁

- 周囲の建築物等と壁面の位置や高さ、色彩、素材等を調和させる。
- 外壁の基調色として用いる色彩は別途定める範囲内にする。
(33 ページを参照)

広告物

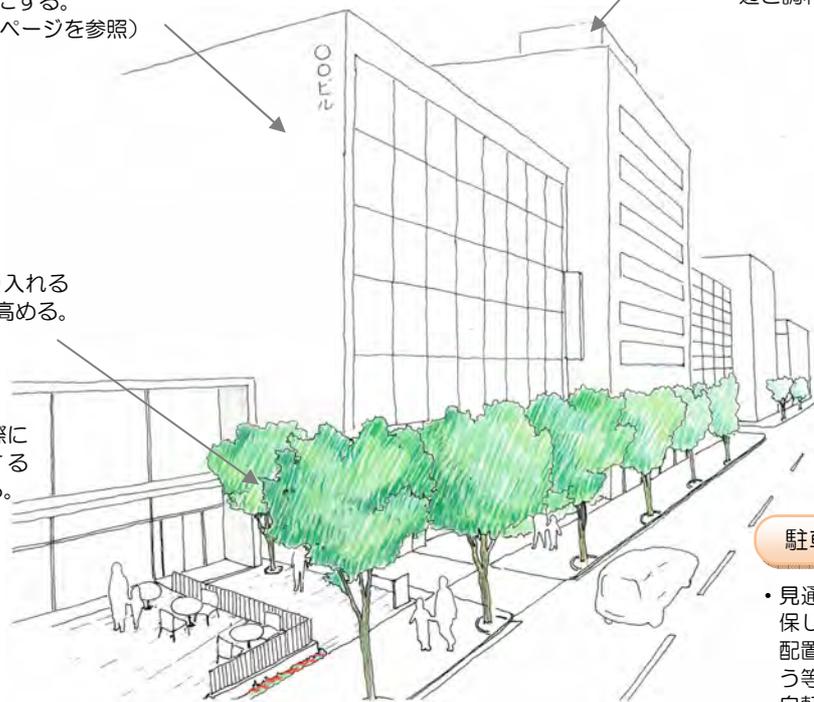
- 建築物との一体化を図る、建築物の外壁と調和する地色にする等、建築物や周辺と調和させる。

外構

- 花やみどりを取り入れる等、彩りや潤いを高める。

植栽

- 道路に面する敷際に植栽帯を確保する等、潤いを高める。



駐車場・駐輪場

- 見通し等の安全性を確保した上で、建築物の配置の工夫や生垣で囲う等により、自動車や自転車が通りから目立たないようにする。



横ラインに連続性が感じられるファサードで、まとまりのあるまちなみにしている



敷際に植栽を施し、街路樹と一体となって潤いを高めている



壁面広告を最小限にし、建築物になじませている



敷際に植栽を設けて駐車場を見えにくくする

(3) 工場・倉庫

工場・倉庫

製造・加工等の工場や運輸関連施設等を対象としています。

特徴

建築物の外壁や植栽等の外構、屋外広告物、関連設備類がまちなみに大きな影響を与えます。

配慮事項

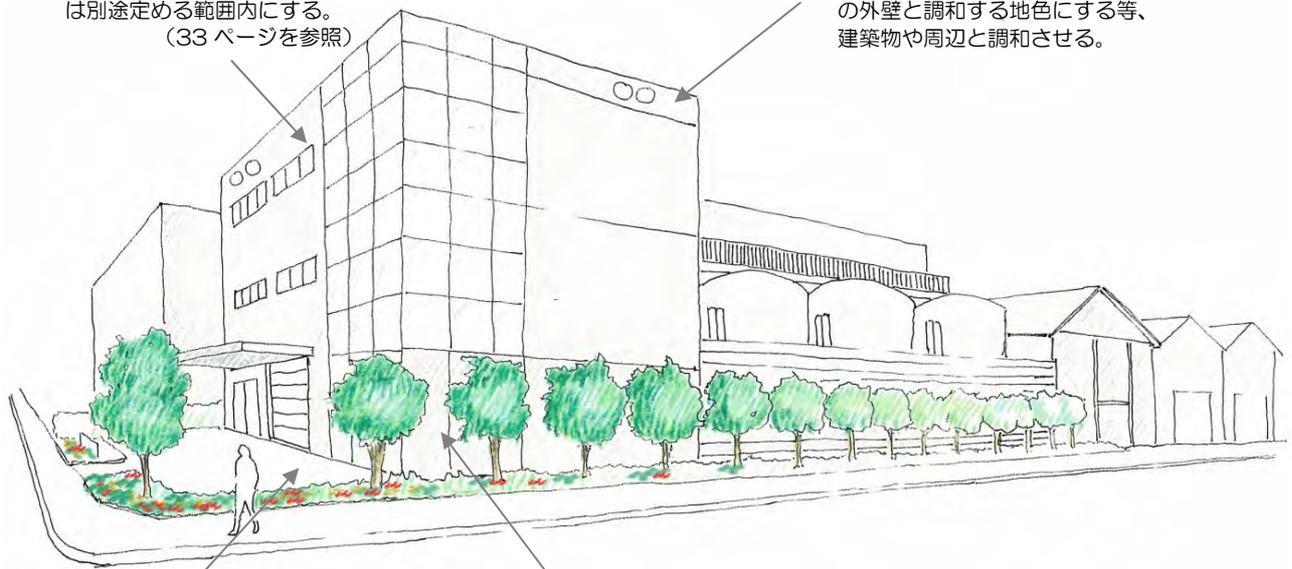
植栽の潤い等による親しみのもてるまちなみづくりや敷地にゆとりを感じさせる工夫等を進めましょう。

外壁

- 外壁の基調色として用いる色彩は別途定める範囲内にする。
(33 ページを参照)

広告物

- 建築物との一体化を図る、建築物の外壁と調和する地色にする等、建築物や周辺と調和させる。



外構

- 花やみどりを取り入れる等、彩りや潤いを高める。

植栽

- 道路に面する敷際に植栽帯を確保する等、潤いを高める。



広告物を切文字とし、壁面になじませている



敷地内の植栽を積極的に見せ、潤いあるまちなみにしている



外壁に明るい印象の低彩度色を用い、親しみやすさを演出している



敷地の緑化により潤いを高めている

2 各建築要素の共通配慮事項

(1) 屋根 シルエットをつくる重要な要素になるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

①周囲の建築物等と形態や色彩、素材等を調和させる

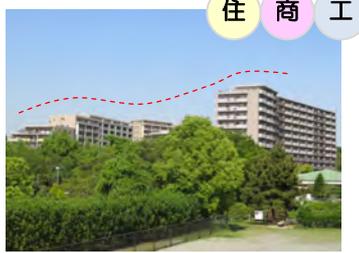
<配慮事項>

○勾配屋根とする等、落ち着いた形態とする

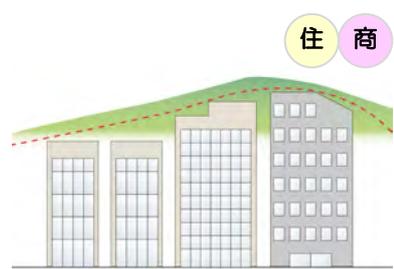


○すっきりとしたスカイラインをつくる

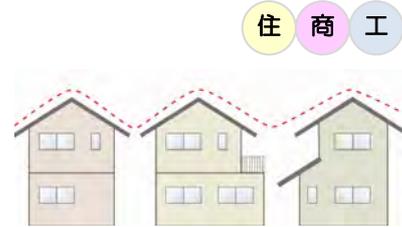
○落ち着いた色彩（低彩度色）にする



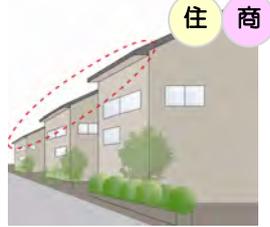
○中高層の建築物群がまとまったシルエットとなるよう配置・形態を工夫する



○まちなみの連続性に配慮した形態・意匠にする



○屋根の勾配や軒の出幅を整える



【景観配慮内容】

住 商 工

②屋根の基調色として用いる色彩の範囲は、次のとおりとする。

明度6以下、彩度4以下を基本とする。
ただし、良好な景観を形成していく上で、より有効と考えられる場合は、次の範囲とする。《有彩色(R,YR,Y,GY,G,BG,B,PB,P,RP)は明度8以下、彩度6以下、無彩色(N)は明度8以下。》

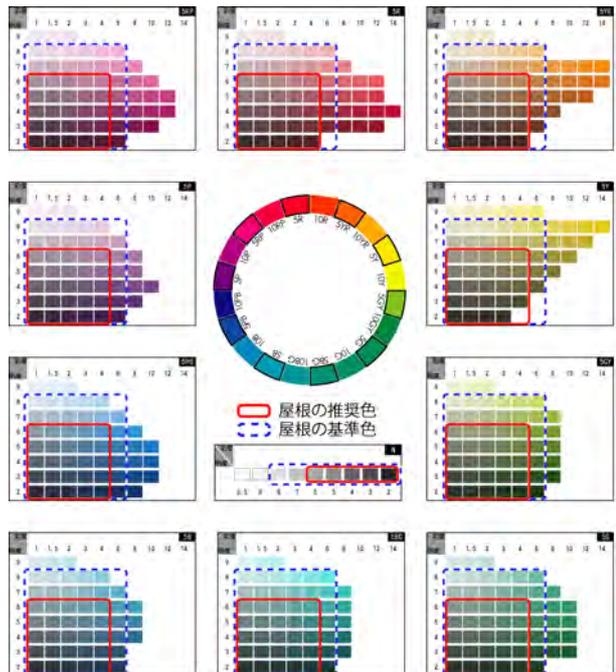
※1：色彩の数値表示は、日本工業規格（JIS）に基づく色彩の表示方法（マンセル表色系）による。

<配慮事項>

○落ち着いた色彩（低彩度色）にする



(参考) 屋根の推奨色、基準色のカラーパレット
推奨色：「豊中市景観配慮指針」における望ましいめやす
基準色：「豊中市景観計画」における景観形成基準



※実際の色彩は色調により確認して下さい。

(2) 外壁

外壁や開口部の意匠によってまちなみの表情が決まるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

①周囲の建築物等と壁面の位置や高さ、色彩、素材等を調和させる。

<配慮事項>

○みどりとなじむ色彩（低彩度色）にする



住 商 工

○長大な壁面は分節化する等、単調にならないよう工夫する



住 商 工

○軒裏や階段裏の色彩は外壁と一体感を保つ



住 商 工

○通りに威圧感を与えないよう、壁面位置を道路から後退させる



商 工

○低層部はまちなみにあわせて、ショーウィンドウ等の設置によりまちなみにぎわいを確保する



商

【景観配慮内容】

住 商 工

②外壁の基調色として用いる色彩の範囲は、次のとおりとする。

明度6以上8以下、彩度 1.5 以下を基本とする。

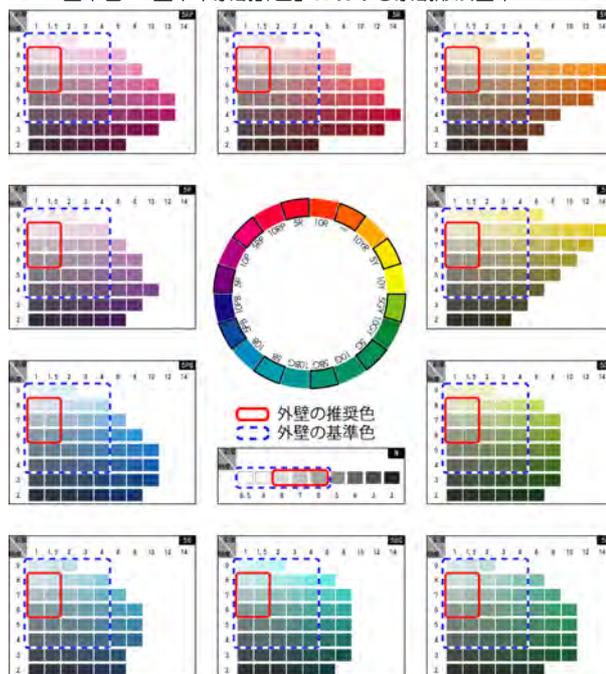
ただし、良好な景観を形成していく上で、より有効と考えられる場合は、次の範囲とする。《有彩色 (R, YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P, RP) は明度4以上9以下、彩度4以下、無彩色 (N) は明度6以上9.5以下。》

※1：色彩の数値表示は、日本工業規格（JIS）に基づく色彩の表示方法（マンセル表色系）による。

※2：着色していない木材、漆喰壁、ガラス等の素材によって仕上げられる部分の色彩はこの限りでない。

※3：見付面積（張り間方向又はけた行方向の鉛直投影面積）の10分の1未満の範囲内で使用される部分の色彩は、この限りではない。

（参考）外壁の推奨色、基準色のカラーパレット
推奨色：「豊中市景観配慮指針」における望ましいめやす
基準色：「豊中市景観計画」における景観形成基準



※実際の色彩は色票により確認して下さい。

(3) バルコニー・テラス 外壁を飾る要素になるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

○洗濯物やエアコン室外機等が通りから見えないよう、腰壁、手摺り、吊金物の位置や構造を工夫する。

<配慮事項>

○洗濯物やエアコンの室外機等が通りから見えないよう形態・素材を工夫する



(4) 屋外階段・エレベーター

目立つ意匠等はまちなみを乱す要素になりやすいため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

○建築物と一体的な意匠を施す等、建築物と調和させる。

<配慮事項>

○通りから見えないよう配置を工夫する

○建築物と一体的な外観意匠とする



(5) 屋上設備・屋上工作物

俯瞰景やシルエットを乱す要素になりやすいため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

①屋根または壁面の立ち上げ、ルーバーを用いて隠す等、通りから見えないように設置する。

<配慮事項>

○屋上の形態・色彩になじませる

○壁面の立ち上げやルーバーの設置により通りから見えないようにする

○通りから見えない位置に設置する

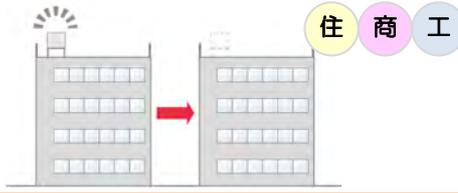


【景観配慮内容】

②屋上工作物を極力減らし、すっきりとした外観にする。

<配慮事項>

○屋上工作物を極力減らす



(6) 広告物（建築物に付随する広告物）

目立つだけのもの等はまちなみを乱す要素になりやすいため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

①建築物との一体化を図る、建築物の外壁と調和する地色にする等、建築物や周辺と調和させる。

<配慮事項>

○建築物と一体感のある意匠とし、けばけばしい色彩やコントラストの強い配色を避ける



○汚れにくく耐久性のある材料を用いる



○照明は周囲に悪影響を与えないよう工夫する



○必要最小限の大きさや掲出数にし、できるだけ集約化、集合化する



【景観配慮内容】

②壁面や屋上、まちかど等目立つ場所では特に意匠に配慮する。

<配慮事項>

○すっきりとした意匠とする



(7) 外構

(門・塀・玄関・アプローチ・生垣・フェンス等)

視界に入りやすく、まちなみの印象を左右するため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

①開放的な意匠や、透視性を確保する等、圧迫感を和らげる。

<配慮事項>

○垣・柵を設ける場合は生垣または透視性のあるものにする



<p>工夫1 植栽のみ</p>	<p>工夫2 植栽+内側に透視性柵 (こげ茶色等)</p>
<p>工夫3 植栽+内側に透視性柵 (ステンレス色等)</p>	<p>工夫4 植栽+内側に目隠しフェンス</p>
<p>工夫5 透視性柵 (こげ茶色等) +内側に植栽</p>	<p>工夫6 透視性柵 (ステンレス色等) +内側に植栽</p>

○塀の意匠を工夫して閉鎖感を和らげる (低くする、分節化する、素材を工夫する 等)

・低くした例



・分節化した例



・素材を工夫した例

住 商 工



<p>工夫1 石積みまたはレンガ積み（自然素材）</p> 	<p>工夫2 タイルまたは石貼り</p> 
<p>工夫3 デザインブロック積み</p> 	<p>工夫4 吹付仕上げ（ローラー、こて等）</p> 
<p>工夫5 カラー等のコンクリートブロック積み</p> 	<p>歴史的な資源が残っているところでは、伝統工法（しっくい塀、板塀、竹垣等）を取り入れましょう</p> 

ステップ4
建築物等の種類に応じた工夫を考えましょう

【景観配慮内容】

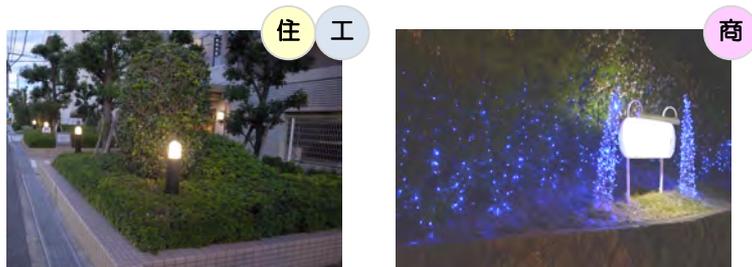
②花やみどりを取り入れる等、彩りや潤いを高める。

<配慮事項>

○敷際の透視性を確保し、敷地内のみどりが通りからも見えるようにする



○敷際に夜間照明を設け、夜間景観を演出する



【景観配慮内容】

③アプローチの舗装は建築物や道路と調和した意匠にする。

＜配慮事項＞

○アプローチの舗装は建築物や植栽がいきる意匠にする



【景観配慮内容】

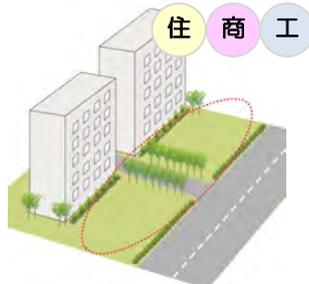
④建築物や周囲との調和やつながりに配慮し、まとまりを持たせる。

＜配慮事項＞

○建築物の周囲にゆとり空間を配し、圧迫感を軽減させる



○オープンスペースを配する時は周囲との連続性に配慮する



○オープンスペースを配する時は周囲とのつながりに配慮する



◆コラム《香りでまちなみづくり 市木・市花を活用しましょう》

豊中市ではキンモクセイを市木に、バラを市花にしています。どちらも香りが楽しめる樹種です。市木や市花を積極的に取り入れることで五感で感じるとともに豊中市らしいまちなみづくりにも寄与することができます。市木や市花を用いてみなさんに愛される景観をめざしましょう。

＜キンモクセイ＞



＜バラ＞



(8) 擁壁

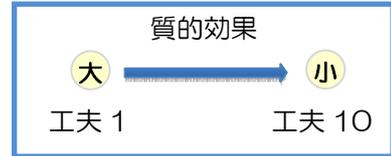
圧迫感を与えたり、単調になりやすいため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

- ①法面にする、緑化を施す、周囲のものとそろえた素材を用いる等、周辺と調和させる。
- ②意匠や素材を工夫し、周辺と調和させ、圧迫感を和らげる。

<配慮事項>

○周辺と調和させ、圧迫感を和らげる



<p>工夫1 30度以下の緩やかな法面+植栽</p>	<p>工夫2 セットバックした石積み擁壁+前面植栽</p>
<p>工夫3 セットバックしたコンクリート擁壁+前面植栽</p>	<p>工夫4 石積み擁壁+壁面緑化</p>
<p>工夫5 化粧型枠コンクリート擁壁+壁面緑化</p>	<p>工夫6 低彩度・中明度色の吹付けコンクリート擁壁+壁面緑化</p>
<p>工夫7 コンクリート擁壁+壁面緑化</p>	<p>工夫8 石積み擁壁</p>
<p>工夫9 化粧型枠コンクリート擁壁</p>	<p>工夫10 低彩度・中明度色の吹付けコンクリート擁壁</p>

(9) 植栽

潤いや和らぎ等を与える要素になるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

①道路に面する敷地に植栽帯を確保する等、潤いを高める。

<配慮事項>

○通りに面する部分を緑化する



○通りに面する壁面を緑化する



【景観配慮内容】

②既存の植栽を取り込む等、みどり豊かな景観にする。

<配慮事項>

○既存の植栽を取り込む



(10) 舗装 (アプローチ・駐車場・駐輪場以外の舗装)

境界を示したり、統一感を与えられるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

①建築物や周辺の道路等と色彩や素材をそろえる等、周辺と調和させる。

<配慮事項>

○外壁の色彩や素材と調和した舗装材を用いる



【景観配慮内容】

②自然素材を用いる、意匠を工夫する等、路面を演出する。

<配慮事項>

○舗装には自然素材を用いる等、建築物の外観・意匠と調和させる



(11) 屋外設備・ごみ置き場等

くらしを支える設備であるが、人目につかないことが重要であるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

○安全上支障がない限り、建築物と一体的な意匠を施す等、建築物等と調和させる。

<配慮事項>

○ごみ置き場は建築物と一体的な外観意匠とする



○ごみ置き場は通りから見えにくい配置にする



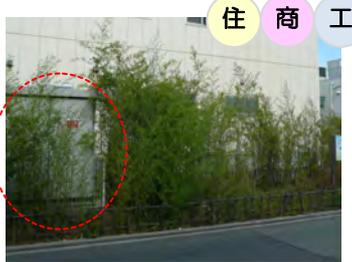
○屋外設備は建築物と一体的な外観意匠とし、素材や色彩等を調和させる



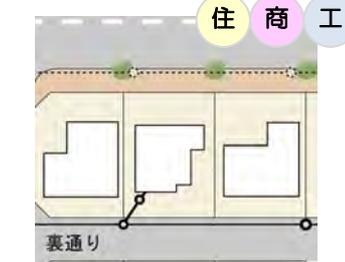
○屋外設備は通りから見えにくい配置にする



○屋外設備は植栽等で目隠しする



○電柱・電線類は目立たない位置に設置する



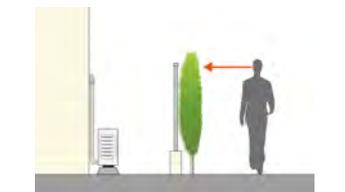
○エアコン室外機に覆いを設けて周囲からの見え方に配慮する



○エアコン室外機は塀や植栽の背後に設置して目立たせない



○エアコン室外機は塀や植栽の背後に設置して目立たせない



(12) 駐車場・駐輪場

おざりな意匠はまちなみを乱すため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

- ①見通し等の安全性を確保した上で、建築物の配置の工夫や生垣で囲う等、自動車や自転車が通りから目立たないようにする。

<配慮事項>

- 通りから自動車が目立たないように駐車場の配置を工夫する



- 通りから自動車が目立たないように植栽等で囲う



- 目立たない位置に駐輪場を配する



【景観配慮内容】

- ②出入口やシャッターの意匠に配慮し、建築物等と調和させる。

<配慮事項>

- シャッターの意匠を工夫する



- 駐車場の出入口や車路ができるだけ通りのまちなみを分断しないよう配置や意匠を工夫する



【景観配慮内容】

- ③路面の意匠の工夫や緑化ブロックを用いる等、無機質な印象を和らげる。

<配慮事項>

- 駐車場の路面に緑化ブロックを用いる等、無機質にならないよう工夫する



- 駐車場の路面が無機質にならないよう工夫する



【景観配慮内容】

④立体駐車場等の設備の見え方にも配慮し、安全性を確保しながらも建築物と一体的な意匠にする。

＜配慮事項＞

○立体駐車場は威圧感を軽減するよう工夫する（建築物と一体的な外観意匠とする、パネル等で覆う、緑化する 等）

- ・建築物と一体的な外観意匠とした例
- ・緑化した例



◆コラム《屋外造形と仲良くつきあう》

屋外に設置するモニュメントやオブジェ等の造形物は効果的に用いることでまちなみを演出する有効なツールになります。これらは目につきやすい場所に設置することが多いことから、建築物や周囲の場所との調和を考えたものとする必要があります。

設置した後は適切に維持管理をしていきましょう。留意点としては以下が挙げられます。

- ・材料の特質や耐用年数を把握した上で、適切な維持・管理方法を検討する。
- ・設置場所を変更する場合は、修復・加工ができるようにしておく。また、撤去する場合は、再生利用の方法を考える。

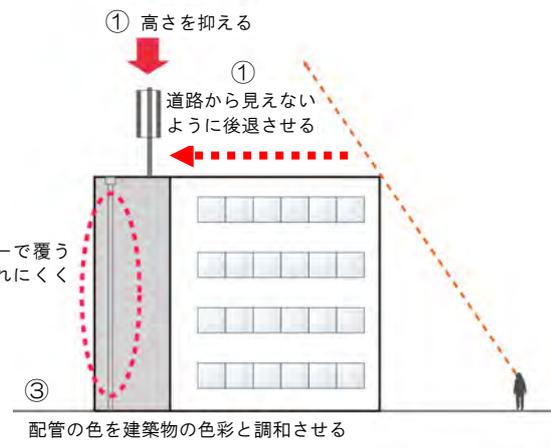


オブジェの周囲に草花を植えこむことで、まちなみをさらに演出することができます



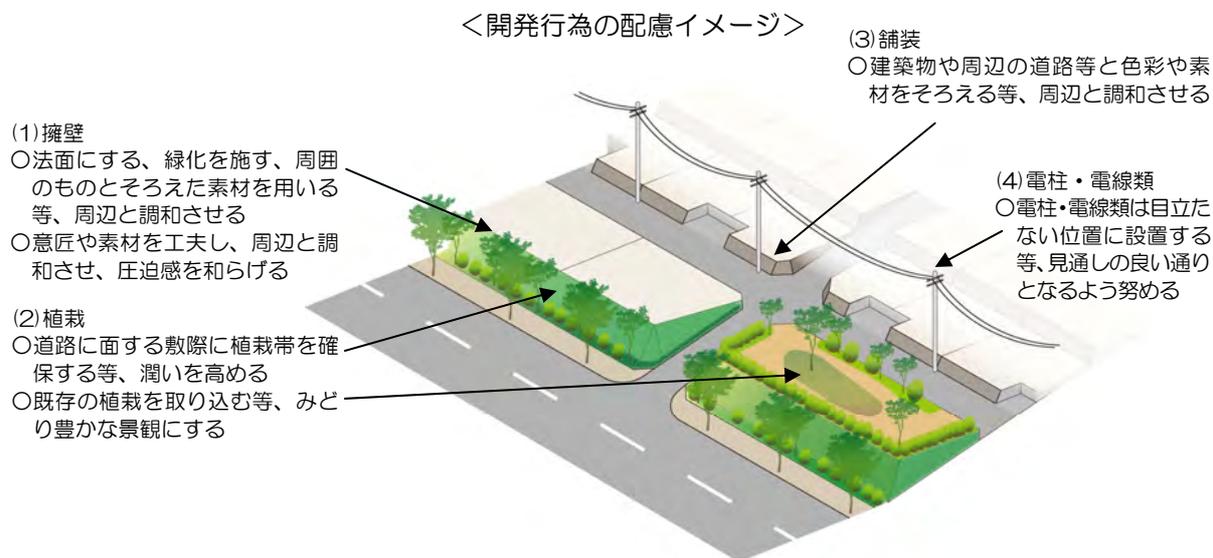
岩を用いた造形物は維持管理が比較的容易と考えられますが、場所やメンテナンスの対応度合いに応じた造形物を置くことが大切です

3 工作物の配慮事項

<p>工作物</p>	<p>機能本位に設置すると、周辺と不調和になりやすいため、以下の点に配慮しましょう</p>
<p>【景観配慮内容】</p> <p>①周囲との調和に配慮し、突出するような状態を避け、違和感を与えない意匠にする。</p>	
<p><配慮事項></p> <p>○周辺への違和感や圧迫感等を緩和する (高さを抑える、周囲に緑化する、目立たない位置に配する 等)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="319 627 678 929"> <p>・高さを抑えた例</p>  </div> <div data-bbox="821 627 1173 929"> <p>・周囲に緑化した例</p>  </div> </div>	
<p>【景観配慮内容】</p> <p>②汚れにくく耐久性のある素材を用いる。</p>	
<p><配慮事項></p> <p>○汚れにくく耐久性のある素材を用いる</p> 	
<p>【景観配慮内容】</p> <p>③周囲との調和に配慮し、けばけばしい色彩を避ける。</p>	
<p><配慮事項></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="255 1691 750 2027"> <p>○周辺から突出した形態のものは、色彩をグレー系（マンセル値：N7程度）とする</p>  </div> <div data-bbox="869 1691 1364 2027"> <p>○配管が建築物に付随する場合は、建築物の色彩と調和させる</p>  </div> </div>	

4 開発行為の配慮事項

開発行為は建築物を建てる前の地盤をしつらえ、まちなみを構成する要素の基礎づくりとなります。この手引きのステップ1とステップ2（4～9ページ）をまず参照し、その上で、以下の点に配慮しましょう。



（1）擁壁 圧迫感を与えたり単調になりやすいため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

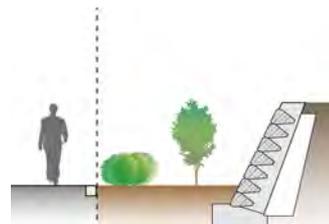
①法面にする、緑化を施す、周囲のものとそろえた素材を用いる等、周辺と調和させる。

＜配慮事項＞

○法面と組み合わせ、擁壁高さを抑える



○擁壁の前面を緑化する

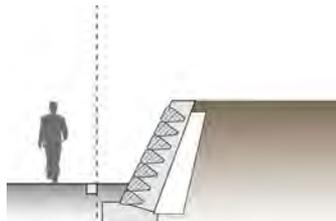


【景観配慮内容】

②意匠や素材を工夫し、周辺と調和させ、圧迫感を和らげる。

＜配慮事項＞

○擁壁は自然石を用いる



⇒擁壁の工夫例（39ページ）を参考にしてください

(2) 植栽

潤いを生み出す要素になるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

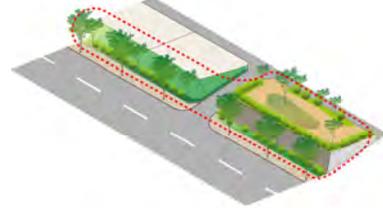
①道路に面する敷地に植栽帯を確保する等、潤いを高める。

<配慮事項>

○敷地の道路に面する部分はあらかじめ植栽帯を設ける



○まとまった規模の宅地開発では、緑地は通りから見える位置にできるだけまとめて配する



【景観配慮内容】

②既存の植栽を取り込む等、みどり豊かな景観にする。

<配慮事項>

○既存の植栽を取り込む



(3) 舗装

まちなみの基盤となるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

○建築物や周辺の道路等と色彩や素材をそろえる等、周辺と調和させる。

<配慮事項>

○舗装は周辺の道路等との連続性に配慮する



(4) 電柱・電線類

必要なものであるが、人目につかないことが重要であるため、以下の点に配慮しましょう

【景観配慮内容】

○電柱・電線類は目立たない位置に設置する等、見通しの良い通りとなるよう努める。

<配慮事項>

○電柱・電線類は裏通り側に配する



裏通り側に配する方法

1 緑化についての留意事項

以下では、潤い豊かなまちなみづくりに向けて緑化に関して留意すべき事項を示しています。

(1) 場所（空間）や目的に応じた樹木選び

同じ敷地内でも、場所や目的により適する樹種、適さない樹種があります。例えば、敷地境界に高木の落葉樹を植えると、落ち葉の片付けや剪定の手入れが大変で、隣地に迷惑をかけることもあります。植栽を配する場所毎に適した樹木を選びましょう。

① エントランス（入り口）

入り口は、訪れる人の視線を集める空間として大切です。印象的なシンボルツリーとして季節毎に変化のあるもの、樹形が美しいもの等がお勧めです。

（住宅での例）ハナミズキ、エゴノキ、シャラノキ、シマトネリコ 等

② テラス周りや窓際

テラス周りや窓際の空間は、移り変わる風景を室内から楽しむことができる空間として大切です。夏は日陰ができ、冬は葉が落ち日光が室内に入る落葉樹等がお勧めです。

（住宅での例）ヤマボウシ、カツラ 等

③ 近くで見るもの

人が手を伸ばして愛でる、楽しめるような空間では、花や葉色等が目立つもの、実がなるもの等がお勧めです。

（住宅での例）サルスベリ、イロハモミジ、カンツバキ 等

④ 目隠し

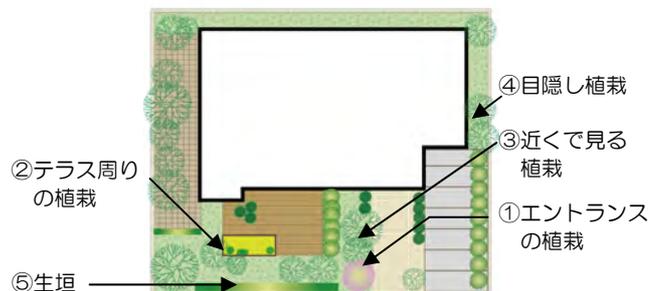
道路からの目隠しや、敷地内を仕切る目隠しがほしい場所では、1年を通して葉がある常緑樹がお勧めです。

（住宅での例）ソヨゴ、ゴールドクレスト 等

⑤ 生垣

生垣は隣地との境界や道路に面した配置が多いため、手入れや高さを考慮した樹種を選びましょう。

（住宅での例）プリペット、ベニカナメモチ、トキワマンサク 等



(2) 植栽の配置

同じ敷地内でも、日照条件等を考えた植栽の配置により、植栽をより美しく効果的に見せることが可能となります。敷地の条件と樹木の性質をあわせて樹種選びや配置を考えましょう。

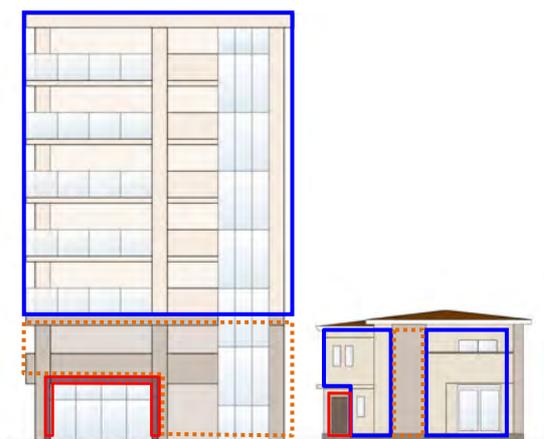
（例）日照を好む樹木を南面に配する／日陰でも育つ樹木を北面に配する

2 建築物等の色彩についての留意事項

まちなみにはさまざまな色があふれていますが、まとまりや落ちつきのあるまちなみづくりに向けて、建築物等の色彩を考えることがとても大切です。ここでは、色彩に関して留意すべき事項を示しています。

(1) 色彩の基礎知識

①色づかいの基本



壁面の大半を占める色彩を「**基調色**」といいます。

本市では、目安として明度 6~8、彩度 1.5 以下をお勧めしています。

「**補助色**」は、基調色を補助し、色づかいによって壁面に深みや立体感をもたらします。

使う場合には、基調色との明度差が 2 程度の類似した色彩がお勧めです。

「**強調色**」は、建築物の部位等に基調色とは異なる色彩を用いて、メリハリを生み出したり、全体を引き締めたりする役割をもたらします。

本市では、見付面積の 1/10 未満での使用をお勧めしています。

②マンセル表色系による色の表し方

色彩を色相、明度、彩度の3つの数値で表すものです。

●色相

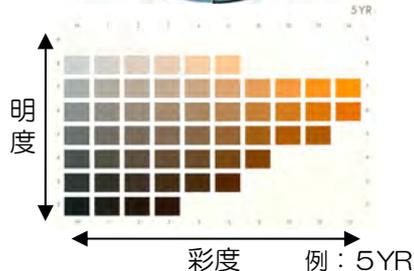
- 色合いを示すものです。
- R (赤)、Y (黄)、G (緑)、B (青)、P (紫) と、これらの中間の YR (黄赤)、GY (緑黄)、BG (青緑)、PB (靑紫)、RP (赤紫) の 10 の基本色とその度合いを示す 0 から 10 までの数値を組みあわせて 5Y や 10YR 等と表します。(右図の色相環を参照)

●明度

- 明るさを示すものです。完全な黒を 0、完全な白を 10 とし、0~10 で表します。
- 数字が大きいほど明るくなります。明るいことを「明度が高い」といいます。

●彩度

- 鮮やかさやくすみを示すものです。
- 数字が大きいほど鮮やかさが増します。色が鮮やかなことを「彩度が高い」といいます。彩度の範囲は色相によって異なります。



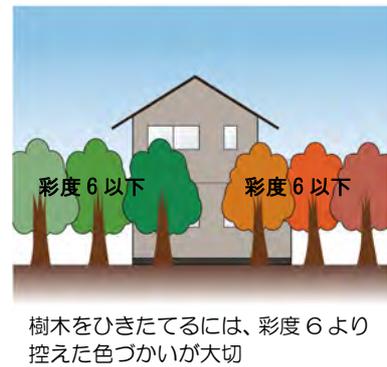
マンセル表色系は色相、明度、彩度の記号と数値の組み合わせで色彩を表します。例えば「5YR8/2」の場合、色相は5YR、明度は8、彩度は2を表し、「5ワイアール8の2」と読み、明るい灰味の黄赤を示します。

無彩色の場合は、無彩色を表す記号「N」と明度の数値で表します。例えば「N8」は明度8の無彩色で、「エヌ8」と読み、明るいグレーを意味します。

(2) 基調色の選び方

① まちなみと調和した色彩

樹木の葉等の自然の色彩は概ね彩度が6以下に収まると言われています。塗料等の人工色は主張が強くはっきりとした色彩もつくることができますが、自然の色彩は周囲になじみやすい柔らかい色合いを持ち、近似した色相が重なり合うことで、全体として統一感やまとまりが生まれています。こうした自然の色づかいを参考にしながら、まちなみと調和した色彩を考える必要があります。



このため、基本的に建築物等の基調色は、まちなみと調和したものを選びましょう。

色彩を調和させるためには色相をそろえる、トーン（色調）をそろえる等、類似色を用いる方法があげられます。

● 色相をそろえる方法

色相が近い色彩を用いると、まちなみが調和します。



YR系でそろえたイメージ

● トーンをそろえる方法

色の明暗、濃淡等のトーン（色調）をそろえる方法も、まちなみが調和します。



トーンをそろえたイメージ

② まちなみから突出しない色彩

外壁の基調色を選ぶ際、まちなみから突出しないことが大切です。このため、彩度を抑えるとともに、明度が高すぎる色彩や低すぎる色彩は避けましょう。お勧めの色彩には例えば、右のようなものがあります。

周辺のまちなみを把握し、突出しない色彩を選択しましょう。



周辺のまちなみから突出しない色彩を使用した例

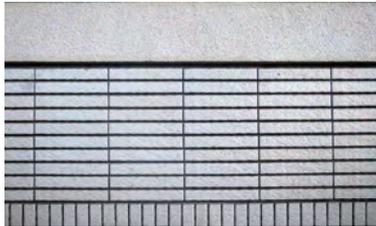
2.5R7/1	2.5Y7/1	2.5G7/1	2.5B7/1	2.5P7/1
2.5YR7/1	2.5GY7/1	2.5BG7/1	2.5PB7/1	2.5RP7/1
5R7/1	5Y7/1	5G7/1	5B7/1	5P7/1
5YR7/1	5GY7/1	5BG7/1	5PB7/1	5RP7/1
7.5R7/1	7.5Y7/1	7.5G7/1	7.5B7/1	7.5P7/1
7.5YR7/1	7.5GY7/1	7.5BG7/1	7.5PB7/1	7.5RP7/1
10R7/1	10Y7/1	10G7/1	10B7/1	10P7/1
10YR7/1	10GY7/1	10BG7/1	10PB7/1	10RP7/1

(3) 色彩についての豆知識

①素材による色づかい

同じ色彩でも素材の質感の違いによって、印象が変わって見え、色を変えなくても外壁に表情をつけることができます。素材との関係も考えて色彩を選びましょう。

また、伝統的な素材の色彩も風情があります。周辺のまちなみに応じて取り入れていきましょう。



表面の素材によって同じ色彩でも印象が変わる
(上：吹付け、下：タイル)



伝統的素材を意識した色彩



木材や石材等の自然素材の色彩をいかす

②みどりが美しく見える色彩の工夫

建築物の外壁の色彩は周囲のみどりをひきたたせる色彩を選ぶことも大切です。シミュレーションで検討してみましょう。

〔色彩シミュレーション〕



建築物（背後）の黄味がひきたってしまい樹木のみどりがひきたらない



低彩度の色彩は樹木のみどりがひきたつ



青や緑系の色味を使うと、せっかくの樹木のみどりがひきたなくなる

また、建築物周辺の外構部に植栽と柵を設ける場合、柵の色彩に配慮することで、柵越しにみる敷地内のみどりや外周のみどりをより美しく見せることができます。

中でも、緑化スペースの前面に柵を設ける場合は、こげ茶色や黒等の柵にすることで、背後のみどりをひきたたせ、美しく見せる効果があります。

〔柵の色と植栽の色彩〕



植栽の前面に「白色」の柵を配すると、みどりより柵の色彩が目立ってしまう



植栽の前面に「こげ茶」や「黒」の柵を配すると、みどりが映えて見える

3 維持管理についての留意事項

以下では、建築後の維持管理に関して計画・設計時に留意すべき事項を示しています。

(1) 汚れにくく維持管理しやすい意匠を工夫しましょう

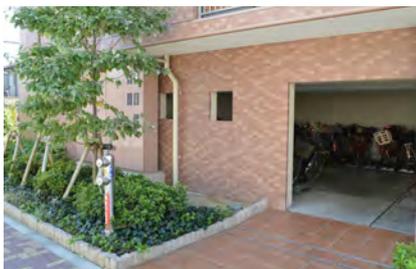
意匠によって汚れやすさや維持管理のしやすさが異なることに留意しましょう。
高速道路や幹線道路沿いでは特に汚れやすいので注意が必要です。



メンテナンスしやすい意匠や汚れの付きにくい形態を工夫する(軒の出を深くしたり壁から庇を出す 等)

(2) 汚れにくく耐久性があり、補修がしやすい材料を用いましょう

材料によって汚れやすさや耐久性、補修のしやすさが異なることに留意しましょう。



メンテナンスしやすい材料を用いる(タイル等入手しやすい材料、耐久性がありエイジングも考えた材料、部分的な補修が目立ちにくいモザイクタイル 等)



エイジングの美しい材料を用いる(木材や石材等)

(3) 維持管理を考えて植栽を施しましょう

植栽の成長や維持管理についても留意しましょう。



場所に合った植栽を工夫する(成長を考えた樹種、日当りを考えた植栽、灌水装置 等)